GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

週刊

新訂版

EVANGELION CHRONICLE

エヴァンゲリオン・クロニクル

21

定価690円(税込)

2010/6/29

Mechanic Sheet
第9使徒マトリエル

Character Sheet
碇シンジ B

Tactics Sheet
ロンギヌスの槍回収

Installation Sheet
その他地域 B

Timeline Sheet
ダミーシステム、起動

Technology Sheet
パイロット装備

Extra Sheet
用語辞典／企画書／トピックス

DeAGOSTINI

インターネットでパートワークをより楽しく deagostini.j

エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版

EVANGELION CHRONICLE 21

目次 | CONTENTS

Mechanic Sheet メカニックシート
第9使徒マトリエル ―― 01-04

Character Sheet キャラクターシート
05-08 ―― 碇シンジ B

Tactics Sheet タクティクスシート
ロンギヌスの槍回収 ―― 09-10

Installation Sheet インスタレーションシート
11-12 ―― その他地域 B

Timeline Sheet タイムラインシート
ダミーシステム、起動 ―― 13-16

Technology Sheet テクノロジーシート
17-20 ―― パイロット装備

Extra Sheet エクストラシート
用語辞典 ―― 21-24
企画書 ―― 25-28
トピックス ―― 29-32

新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちらで！

PCサイト
▶http：//www.gainax.co.jp/anime/eva/
携帯サイト▶http：//wpp.jp/eva/ ココからGO!
エヴァンゲリオン オフィシャルストア
▶http：/www.evastore.jp/

週刊エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版

［発行日］ 2010年6月29日
［発　行］ 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〒104-0045
東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル
［発行人］ 小河原和世
［編集人］ クロス中山慶子
［チーフエディター］ 安部 翠
［印　刷］ 大日本印刷株式会社

©2010 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.

［編集協力］ 株式会社ウィーヴ（石川裕人／田代 豪／大久保圭／本多らな）
［監修］ 株式会社ガイナックス

©GAINAX・カラー／Project Eva. ©GAINAX・カラー／EVA製作委員会

＜オリジナル版＞
［編集協力］ 有限会社 メガロマニア（富田英樹／高村泰稔／渡邉洋三／加藤和弘／山田展寛／桑木貴章／鈴木秀治／公森直樹）
［執筆］ TRAP（西川紗矢／遠藤智子）／ぼろり春草
［イラスト］ 市川裕文／深野洋一（M.I.C.）／射尾卓弥／K2商会
［デザイン］ ローカル・サポート・デパートメント（島田英明／角田正明）
株式会社 インフォビジョン（河野幹哉／安川純史／田中春夫）
＜新訂版＞
［編集協力］ スタジオ・ハードデラックス株式会社（伊藤桃香／米良真一）
［デザイン］ スタジオ・ハードデラックス株式会社（松本優典）

●書店向け注文受注センター
（書店様からのご注文を承ります）
TEL 03-5212-5311
（月～金 9:30～17:30 土日祝日を除く）
FAX 03-5212-5312
●読者サービスセンター
（本誌関連の一般的な質問を承ります）
TEL 0570-008-109
（月～金 10:00～18:00 土日祝日を除く）

※本商品は2007年に刊行された『エヴァンゲリオン・クロニクル』（発売：ソニー・マガジンズ）に改訂を加えて刊行するものです。

本誌の最新情報をCheck!
PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
http://deagostini.jp/eva/

定期購読のご案内

週刊『エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版』は、毎週火曜日発売です（一部地域を除く）。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄の書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者専用定期購読受注センターに電話またはFAXで
TEL 0120-300-851
（9:00～21:00 年中無休）
FAX 0120-834-353
（定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付）

2. インターネットで
http://deagostini.jp/eva/ （24時間受付）
※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

3. 定期購読申し込み用紙を郵送
（「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合は受注センターまでご連絡ください。）

特製バインダー発売のお知らせ

週刊『エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版』は特製バインダー4冊に収まります。エヴァンゲリオン大百科を完成させるのに不可欠なバインダー2・3巻の2冊セットを7月上旬に通常価格1,790円（税込）で発売する予定です。
※4巻目のバインダーは第31号でプレゼントいたします。

下記弊社プライバシーポリシーに同意の上、お申し込みください。【個人情報のお取り扱いについて】 1. 個人情報の利用目的 商品の発送と連絡、各種情報・資料等のご案内を利用目的とします。 2. 第三者への個人情報の提供・開示等 法令の規定に基づいて司法・行政機関等からの情報開示の要請を受けた場合を除き、第三者に個人情報を提供・開示等をすることはありません。 3. 個人情報の委託と管理 弊社は注文の受け付けと確定、商品の配送、クレジットカード会社への確認と支払いの処理、代金収納専門企業による売り上げ代金の収納、データの分析、カスタマーサービスなどのために必要な範囲内で保有している個人情報を他社に委託していますが、契約等により委託先を厳重に管理いたします。 4. 個人情報提供の任意性 個人情報を弊社に提供されるかどうかは、お客様の任意におまかせします。但し各申込フォームの項目に未記入部分があると手続きができない場合もあります。（購入に関するお問い合わせは定期購読受注センター：0120-300-851へ） 5. 個人情報に関する開示請求等のお問い合わせ窓口 デアゴスティーニ・ジャパンCRM部部長 電話番号：03-5309-8286 ＊受付時間 10:00-18:00（土日祝日、弊社休業日を除く）＊弊社ウェブサイトで個人情報保護の詳細をご案内しております。 http://deagostini.jp/security/

D21-01

第9使徒 マトリエル

人災の隙を突いた使徒

UNKNOWN

NINTH ANGEL

MATRIEL

Illustration by Hirofumi Ichikawa

使徒を肉眼で確認！

これで急がなきゃいけないのが、わかったでしょ！

（惣流・アスカ・ラングレー）

DATA

呼称：9th ANGEL
第9使徒

天使名：MATRIEL
マトリエル

象徴：SYMBOL
雨

能力：ABILITY
溶解液

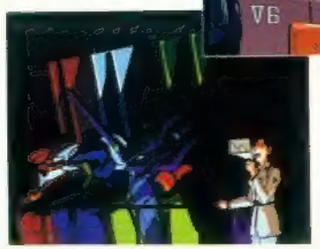
本部の直接侵入に特化した使徒

NERV本部への直接侵攻に特化したためか、使徒の中でも戦闘力は低い。ただしタイミングには恵まれており、抵抗を受けることなく第3新東京市の中枢まで入り込んでいる。これもまた、機を計るような何らかの能力なのだろうか。

第3新東京市が停電に陥る中、悠然と旧熱海方面から上陸。そのまま何ら抵抗を受けることなく第3新東京市のゼロエリアまで到達し、溶解液による本部直接侵攻を目論む。しかし、EVA3体の連携によりあえなく殲滅された。

マトリエルは、ユダヤ、キリスト神秘主義では雨を司る天使だという。溶解液による攻撃はさながら雨にも見える。

抵抗を受けずに第3新東京市の中枢まで侵攻した希有な使徒。これは偶然なのか、人災による停電を知っていたのかは定かではない。



停電のさなかEVAは人力によって起動。出撃の途中に、縦穴でマトリエルの溶解液にさらされることとなる。

関連事項 RELATED MATTERS

- R-07
- EVA人力起動
- 総括総隊司令部
- 高橋暁
- 使徒

第3新東京市からNERV本部へと通じる非常用通路。その際に道を間違えたアスカは、侵攻中の使徒と遭遇してしまう。

マトリエルの体構造

一見蜘蛛のような外見で、小山ほどの大きさを持つ。裏返った亀の甲羅のような本体から4本の脚が伸びており、巨体ゆえに移動速度も速い。EVAと交戦した場所が特殊であり、正面切っての戦闘力は未知数であるが、真下からの攻撃に対しては弱かった。

① 4本の脚

歩脚は昆虫のものに酷似。ふたつある節のような関節部分は柔軟な物質で構成されており、可動範囲は広い。その一方、脚全体の硬度は高く、先端は槍のように鋭く尖っている。

② 本体と溶解液

目のような模様が描かれた本体。この部分は地面に近い高さにあり、移動時にも脚の動きに合わせて上下することはない。その下部中央にある目のような器官から、溶解液が分泌される。

目の周りから涙が溢れ出るように分泌される溶解液。金属を腐食させるように溶かしているため強力な酸性を持つと思われるが、EVAの装甲なら短時間は耐えられる程度の威力だった。

⬇目の模様がある本体部分

マトリエルの活動記録

中部警戒管制司令部の索敵レーダーに捕捉されたマトリエル。海上から旧熱海方面に上陸し、第3新東京市へと侵攻する。その際、NERV本部は人為的な停電により機能が麻痺し、使徒の襲来を察知できていなかった。そのため抵抗を受けることなく侵攻を続け、第3新東京市の中枢である本部の直上にて停止。溶解液により装甲板を溶かしてジオフロントへの直接侵攻を企てる。しかし、初号機のパレットライフルによるフルオートの一斉射を直下から浴び殲滅された。

海上から旧熱海方面に上陸。そのまま第3新東京市へと侵攻し、本部を直接攻撃できるポイントまで難なく辿り着いた。

弐号機が溶解液の防御とA.T.フィールドの中和、零号機が落ちた武器の回収、初号機が攻撃というチームプレイで殲滅された。

マトリエル侵攻記録

旧熱海方面より上陸
▶ 第3新東京市に侵入
▶ NERV本部直上にて溶解液を分泌。直接侵入を図る
▶ EVA3機と交戦
▶ マトリエル殲滅

特記事項

マトリエル戦における影の功労者たち

人災によって停電に陥っていたため、情報が遮断されていたNERV本部。そのタイミングで使徒が襲来したため人知れず危機に陥ることに。その状況を打開したのが国連軍と市議選立候補者の存在である。国連軍はできうる手段を尽くして使徒の接近を第3新東京市に伝え、選挙活動の車がその情報を本部まで伝える手段として使われた。

府中 総括総隊司令部

総括総隊司令部は、使徒襲来に対して動きのないNERVを訝しみ、航空機による肉声アナウンスで使徒の接近を告げた。

高橋覗の選挙カーを徴発した日向マコトは、使徒接近を告げつつ発令所へ。その過程でEVA操縦者たちも危機を知る。

⬆高橋覗の選挙カー

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

EVAの操縦に葛藤を抱く少年

NERV

3rd Children

碇 シンジ

SHINJI IKARI

Illustration by Youichi Fukano

キャラクターシート
Character Sheet

SHINJI IKARI
碇シンジ
SHINJI IKARI

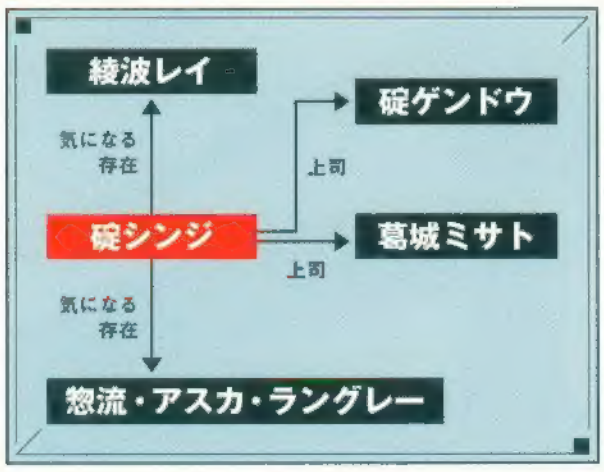
個人情報

名前	碇シンジ
年齢	14歳
国籍	日本
生年月日	A.D.2001/06/06
血液型	A型
所属	NERV/EVA初号機専属操縦者

碇シンジは、操縦者としての訓練を受けることなくEVAに乗り始めたという点において、適格者の中でも特殊な存在といえる。彼は初搭乗時に41.3%という高いシンクロ率を記録し、NERVの面々を驚かせた。EVAの操縦適格者として最高ともいえる適性を持っていた彼は、本人の内向的な性質とは裏腹に、数々の戦闘において最前線に立つことをなかば義務づけられる。しかし、決してEVAに乗って戦うことを好んでいたわけではなく、使徒との戦闘の最中にも幾度となく苦悩する様子を見せ、長い間、EVAに乗る理由を見出せずにいた。それでもEVAに乗り続けていた理由は、自分に課せられたこと——実際には放棄も可能である「義務」を拒むことができないという消極的な心理によるものである。しかし、他の適格者や周囲の大人たちと関わっていくうちに、徐々にEVAに乗る理由を見出していくこととなる。

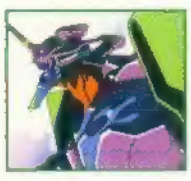
それと並行するようにして、作戦的な面においても少しずつ成長が見られる。最初はEVAの操縦自体に慣れていないこともあり、ただがむしゃらに使徒に向かっていく戦い方がメインであった。また、時には命令違反なども見られ、初号機操縦者としての自覚は薄いと言わざるを得ない状態であった。しかし、戦闘を重ねるごとに他の適格者らが操るEVAとの共同戦闘が多く見られるようになっていく。とくに、弐号機が戦闘に参戦するようになってからは、初号機単独での戦闘はほぼなくなり、2機もしくは3機で展開される作戦の中で、自らの役割を果たすこと——他者との協調を覚えていくこととなった。

人物相関図



関連事項

- EVA初号機
- 綾波レイ
- 惣流・アスカ・ラングレー
- 碇ゲンドウ
- 葛城ミサト



シンジが専属操縦者となるEVA。第14使徒ゼルエルとの戦闘においては、敵を捕食。その結果、S²機関を搭載した。

表情

←基本的なシンジの性質はあくまでも内向的なものである。感情を読みとりにくい表情は、いかにもシンジらしいものといえるだろう。

→叫ぶような表情のシンジ。戦闘中にこういった表情を見せる他に、アスカと口論する時などにも似た表情を面に出すこともある。

→上司に対する反抗的な表情も次第に見られるようになっていく。ただ、それらは不満を表面化する程度のもので、攻撃性を表すものではない。

満面の笑みを見せることは少ないシンジだが、シンクロテストでトップの数値を記録した際は、少年らしい笑顔を浮かべた。

プラグスーツ

シンジが着用するプラグスーツとインターフェイス・ヘッドセット。色はどちらも青を基調としている。背面には「1」の文字があり、初号機搭乗者専用のものであることがわかる。なお、緊急時にはプラグスーツを着用せず初号機に搭乗、出撃したことも幾度かあった。

背面

正面

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

碇シンジの戦闘記録

←シンジの操縦するEVA初号機。実験機ではあるが性能的に劣っている部分は見受けられず、多くの戦闘において主力を担っている。

←プラグスーツなしでEVAに乗り、使徒と交戦したのはシンジのみである。

↓第7使徒イスラフェル殲滅作戦のための訓練において、アスカとのペアルックを身に着け、共に特訓に励んだ。

シンジの初出撃は、第3使徒サキエル襲来時のことであった。初号機は同使徒の猛攻を受け一時沈黙したものの、その後暴走しサキエルを圧倒。最終的には自爆に追い込んだ。次の第4使徒シャムシエルとの交戦では、民間人が直近にいたため一時退却するよう命令されたが、シンジはそれを拒否。活動停止直前まで敵のコアに直接攻撃を加え沈黙させた。

以上の戦闘は、勝利を収めたとはいえ作戦通りといえるものではない。しかしこれ以降、初号機はめざましい活躍を見せる。第5使徒ラミエルとの戦闘では零号機と共にヤシマ作戦を展開し、ポジトロンスナイパーライフルによる狙撃に成功。第7使徒イスラフェルは、弐号機との共同作戦により撃破。第9使徒マトリエル戦では初のEVA3機同時展開による作戦が遂行され、シンジは射撃手を担当した。第10使徒サハクィエル戦においても3機の展開したA.T.フィールドにより落下する使徒を保持、殲滅するという作戦の一端を担った。操縦者としてのシンジは、戦闘を重ねるごとに成長していたといえるだろう。

対サハクィエル戦までは順調に成長を続けていたかに見えたシンジだったが、第12使徒レリエル戦では、通信によるミスを犯してしまう。その活躍は、精神状態に左右される場合が多かった。

EVA初号機専属操縦者としての存在

レイに対し甘えととれる言葉を吐くシンジ。この時点では、ただEVAに乗って怖い思いをしたくないという気持ちが強かったようだ。

シンジがEVAに搭乗することとなった当初は、操縦者として消極的な面が強く見られた。これはシンジの内気な性質もさることながら、準備期間がまったくなかったことも一因と推測される。一般人として日常を送っていた少年が、突如として巨大兵器を操縦して正体不明の敵と戦う——およそ考えがたい状況であり、いたしかたないこととともいえる。しかし、操縦に慣れていくにつれ、彼は操縦者としての頭角を現していく。EVA初号機との高い適合性を持っていたことはもちろん、自己を主張することの少ないシンジの性格が、命令に逆らうことなく行動するという点で操縦者に適していたともいえるだろう。

EVAに乗る理由

シンジがアスカに向かってEVAに乗る理由を問うた際、アスカは迷わず答えを出した。対照的に、理由を問われたシンジは「わからない」と彼らしい返答をしていた。

ゲンドウに褒められたことで、EVAに乗る理由のひとつを見出したシンジ。彼の独白を耳にしたミサトとアスカにとってはとくに驚くべき返答ではなかったようだ。

EVAに乗り始めてからしばらくのあいだ、シンジはEVAに乗る明確な理由を持っていなかった。強いて理由を述べるならば、ほかに乗れる人がいないから仕方ない、というむしろ向きなものである。

しかし、彼はそんな自分のあり方に疑問を持ちはじめたのか、同じ適格者であるレイやアスカにEVAに乗る理由を問うようになる。そして第10使徒を撃破した後、ゲンドウに「よくやったな」というひと言をかけられたことにより、その言葉を聞きたくてEVAに乗っているという結論に達した。自分で自分を認められない彼にとって、他者に褒められることは、EVAを操縦する原動力となっているようだ。

適格者 綾波レイ との関係

試しにユニゾン練習をしてみるシンジとレイ。協調し合ったふたりは、見事といえる同調を見せた。互いの性質にも、多少なりとも似通った部分があるのかもしれない。

レリエルの内部に取り込まれた後、無事生還し目覚めたシンジに気遣うような言葉をかけるレイ。以前のふたりならば、このようなやりとりは見られなかったであろう。

EVA零号機専属操縦者である綾波レイは、シンジにさまざまな影響を与えた存在である。そもそもシンジがEVAに搭乗しようと決意をしたのは、満身創痍でも命令に従い、EVAに乗ろうとしたレイを見たことがきっかけだった。また、絆のためにEVAに乗り、それ以外に何も持たないという彼女のあり方はシンジの心に強い衝撃を与え、結果として彼の前向きな思考を引き出す一因となる。シンジとレイは、感情や自らの思考を表に出すことを苦手とする、もしくはその方法を知らないという点において似通っており、そんな彼らが関わり合うことにより、それぞれの人間的な成長が促されているとも考えられる。

対イスラフェル戦のために行なわれたユニゾン特訓は、アスカとシンジの距離を大きく縮める大きな要因のひとつとなった。

適格者 惣流・アスカ・ラングレー との関係

EVA弐号機専属操縦者であると同時に、シンジの同居人のひとりでもある惣流・アスカ・ラングレー。彼女は同じEVA操縦適格者として、シンジに強い対抗心を燃やしている。プライドが高く攻撃的で、シンジとは正反対ともいえる性質を持つアスカの言動は、シンジを引きずるようなかたちではあるものの、図らずも彼の心を外に向けさせる効果を持っているようだ。本来ならば他人とのいさかいを好まないであろうシンジが、アスカとは口論を展開していることからもその効果が見てとれる。また、同居という状況の中で、時に異性として意識させられることもあり、シンジを戸惑わせる存在でもあるようだ。

その他の適格者 との関係

友人であるトウジを傷つけることとなった、ゲンドウの冷徹な判断。シンジは怒りに任せ、初号機の中に立て籠もった。ここまでの激しい怒りを見せることは極めてまれだ。

シンジはカヲルに対して、初対面から良い感情を抱いていたようだ。だからこそ、その正体を使徒と知ったときに酷いショックを受けることとなったのだろう。

適格者として選出され、EVA3号機の操縦者となった鈴原トウジ。彼とシンジは、親しい友人関係にあった。そのため、トウジの乗った3号機（侵食を受けたため、第13使徒バルディエルと識別）が、ダミーシステムを起動した初号機により破壊されるという事件は、シンジに強い怒りを覚えさせた。また、シンクロ率を保てなくなったアスカの代理として招かれた渚カヲルとは、短期間のうちに友情を深めた。しかし、彼の正体が使徒であったことを知り、シンジには手酷い裏切りと感じられる結果となった。どちらも適格者として関係した期間は短かったが、シンジの心に大きな傷を残す存在となってしまった。

特記事項

上司たちとの特殊な関係

シンジとその上司との関係には、多くの特殊性が見られる。NERV最高司令官であるゲンドウは、シンジの実父でありながら、彼に対してはほとんど事務的な対応しかとらない。しかし、シンジの方はゲンドウに対し、恐怖、愛憎入り混じった感情を抱いているように見受けられる。その感情はシンジを苦悩させる大きな原因となっているようだ。また、直属の上司にあたる葛城ミサトとシンジは「保護者と被保護者」という関係であり、単なる組織的な上下関係とは一線を画している。ときに仕事においても感情的な面が出てしまうことがあるようだが、同居していればお互いの私的な面もよく知ることとなるのだから、これは無理からぬことといえるだろう。

EVAに乗るどころか、生きる気力すら失ったシンジを一喝するミサト。彼女の心から発せられる強い言葉は、少なからずシンジの心を動かした。

照れ隠しに進路相談に行くのも仕事だと言ったミサトだったが、シンジは軽いショックを受けていたようだ。

自分とはまともに会話しないが、レイとは親密な様子のゲンドウ。それを見たシンジの心情は複雑であったろう。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

Illustration by Takuya Ito

ロンギヌスの槍回収

碇司令自らが赴き南極にて行なわれた、巨大な物体「ロンギヌスの槍」のサルベージ

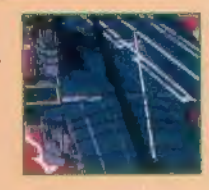
TACTICS SHEET

南極において行なわれた、「ロンギヌスの槍」と称される物体のサルベージ作業。これはNERVの中核を担う最高司令官と副司令のふたりが直接現地へ赴いた重要な任務であった。原則的に軍事組織であるNERVの正副両司令官が共に本部を離れるということは、極めて異例な事態であり、それだけでもこの任務のプライオリティの高さがうかがい知れる。しかしながら、南極にて回収の実作業を行なったのは、NERV直属の部隊ではなく国連軍であった。従って本任務には護衛としてのEVAシリーズ、およびそのパイロットを随伴することなく、国連軍保有の通常兵器を搭載した艦船のみで部隊が編制されている。さらに、南極での任務の実体——ロンギヌスの槍の具体的なサルベージの方法や回収地点などは今なお不明である——について知らされていたのは、NERV本部内においても、正副両司令を含めごく僅かであったと思われ、この任務、ひいてはロンギヌスの槍が最高機密扱いであったことがわかる。つまり、サルベージの実作業はNERVの上部組織に相当する人類補完委員会の主導で行なわれたと見るのが妥当であろう。

さて、そのロンギヌスの槍であるが、人類以外の何者かによって造られた超巨大な槍状物体であること以外は、ほとんど明らかにされていない。この未知の物体はセカンドインパクト以前に地球上で発掘され(発掘場所は、アラビア半島の死海と旧南極大陸の2説あるが詳細は不明)、セカンドインパクト時には南極の葛城調査隊の元に運び込まれたと言われており、今回のサルベージ任務は、おそらくこれらの情報を元に計画、実行されたものと考えられる。つまり、セカンドインパクト以前からロンギヌスの槍の情報を、国連上層部——2015年時点の人類補完委員会——は入手していたことになる。また、碇司令は葛城調査隊とセカンドインパクト直後の南極調査隊に、冬月副司令も後者に同行していることから、具体的なサルベージポイントの特定はこのふたりの情報に依っている可能性もあり得る。こうした点から見て、ロンギヌスの槍が人類補完計画にとって、重要な一要素であることは、疑う余地のない事実であろう。

関連事項 RELATED MATTERS

- ロンギヌスの槍
- セカンドインパクト
- 人類補完計画
- 国連軍
- 葛城調査隊



南極より回収された「ロンギヌスの槍」。その起源や本来の用途についての詳細は不明だが、人知を越えた圧倒的な能力を持つ。

南極海域より回収された巨大な槍状物体「ロンギヌスの槍」は、厳重に梱包され国連軍の空母によって搬送された。これはNERV正副両司令がそろって同行するほどの、重要任務であった。

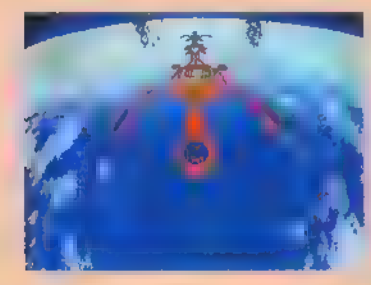
タクティクスシート
Tactics Sheet

ロンギヌスの槍回収
RECOVERING THE LANCE OF LONGINUS

ロンギヌスの槍回収への使徒出現

碇司令と冬月副司令が南極でロンギヌスの槍を回収し日本への帰還中、NERV本部に使徒が襲来。しかし、碇司令はEVAに関しては、回収任務の護衛よりも本部防衛を優先させていたため、使徒迎撃の戦力が削がれることはなかった

南極でのロンギヌスの槍の回収作業任務とほぼ時を同じくして、インド洋上空に使徒が出現。本来であれば、洋上の碇司令から無線指示を仰ぎ、迎撃プランを立案、実行するべきところであったが、使徒の広範囲ジャミングのため、本部と作業艦隊の碇司令との通信は完全に途絶えてしまう。やむなく本部でもっとも階級の高い葛城三佐が独自の判断で作戦を立案し、決行するにいたっている。この作戦の成功率は0.00001％という困難を極めたものであったが、EVAチームの連携によりかろうじて勝利した。しかしながら市街地外辺部の破壊と初号機の腕部破損という損害も被っている。なお、通常戦力しか持たぬ作業艦隊に対して、使徒が侵攻する様子を一切見せなかった点は、幸運であったといえるだろう。



サハクィエルの有するジャミング能力は、ロンギヌスの槍回収任務中の碇司令とNERV本部の交信を遮断させた。結果、NERVは最高司令官の指示なく、使徒迎撃作戦を展開することとなる。

使徒のジャミングのため途絶していた本部と南極海域の碇司令との通信は、敵殲滅により回復。司令は、独自の指揮を執り使徒を殲滅した葛城三佐をねぎらった。

ロンギヌスの槍輸送コース

IMPORTANT SPOT 1 インド洋上空

ロンギヌスの槍回収による碇司令不在時、使徒は突如としてインド洋上空に出現する。使徒はかつてないほどの巨大さであり、圧倒的な攻撃力を秘めていた

インド洋上空の衛星軌道上に姿を現した第10使徒サハクィエル。その後、使徒はNERV本部へと侵攻する

IMPORTANT SPOT 2 南極

使徒出現の報が碇司令にもたらされたのは、南極洋上であったが、直後使徒のジャミングにより通信は断絶。本部の戦況は使徒殲滅まで不明のままとなった

南極で回収されたロンギヌスの槍は、空母に積載、7隻の巡洋艦に護衛されつつ日本へと搬送された

IMPORTANT SPOT 3 日本（NERV本部）

インド洋上空に出現した使徒は、太平洋を経由してNERV本部直上へと接近。NERVは最高司令官と副司令を欠いたまま、迎撃作戦を展開する

本部上空、遠方で使徒はEVA3機の連携により殲滅、成功。EVAへの被害は初号機の腕部損傷、止まる

作戦報告

南極より回収後のロンギヌスの槍

回収されたロンギヌスの槍は、人類補完委員会が直接管理するのではなく、南極から直に日本のNERV本部へと搬入。ターミナルドグマ内にてアダム（のちにリリスと判明）のボディに突き刺す格好にて保管されることとなる。ロンギヌスの槍のNERV本部内での保管自体は、人類補完委員会の意向に反するものではなかったようだ。が、その後、第15使徒アラエル戦において、碇司令は使徒殲滅のために槍を使用。人類補完委員会の不興を買ったとされる。また、使用後のロンギヌスの槍は、使徒を殲滅したものの、第1宇宙速度を突破し月軌道へと移動したため、回収は不可能とされた。しかし、のちの副産業によるNERV本部強収作戦時、あたかも意志を持つかのごとく地球へと帰還し、初号機と融合。ロンギヌスの槍の超常的能力の一端を見せつけることとなる。

EVA量産機は、ロンギヌスの槍の複製品を所持していた。この点からゼーレは、ロンギヌスの槍の技術情報の収集と解析及びその複製に成功していたと推察される。

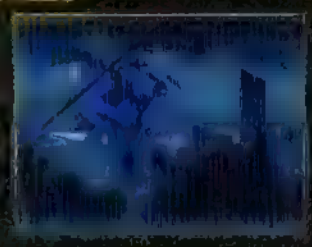
●ロンギヌスの槍回収後の使用事例

1 リリスへの使用

回収されたロンギヌスの槍は、NERV本部ターミナルドグマ内のアダム（実はリリス）に突き刺す形で保管された。だがこれは保管ではなく、リリスの成長抑制のためであったとされる。

2 第15使徒アラエル戦での使用

成層圏に出現したアラエルを殲滅するため、碇司令は零号機にロンギヌスの槍を使用することを命令。この攻撃で使徒は一撃で殲滅。槍の恐るべき力が白日の下にさらされた。



3 EVA初号機への使用

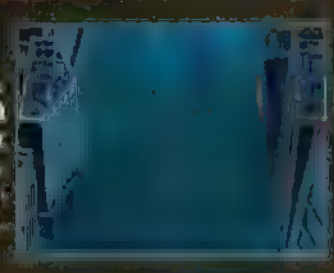
アラエル戦後、月面へと移動し回収不能となったロンギヌスの槍だが、戦自のNERV本部強収作戦の最中、突如飛来。初号機と融合しその機体を「生命の樹」へと変化させている。

特記事項

セカンドインパクトと南極

西暦2000年に南極で発生したセカンドインパクト。南極大陸を消失させた（結果、世界の沿岸地域を水没させた）この世界的災害の原因は、国連発表では隕石の激突となっている。しかし、当時、南極にいた葛城調査隊の全滅失敗とする説があることも見逃せない。また、この地からロンギヌスの槍が回収されていることもあり、槍と葛城調査隊、さらにセカンドインパクトの間に何らかの因果関係があった可能性も推測できよう。そして、のちに槍回収のため南極へと訪れる碇ゲンドウが当時の葛城調査隊に加わっていた事実も、三者を関連付ける要因として注目される。

セカンドインパクトの原因は、隕石の落下によるとするものが主流だが、その中心地から羽のようなものが開いたとも言われており、別の原因によって発生したとする説もある。



セカンドインパクトによって南極の氷はすべて融解、世界中の海面水位が大きく上昇した。よって、海岸線に位置していた多くの都市は、水没してしまっている。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

Illustration by Takaya o

第2新東京市

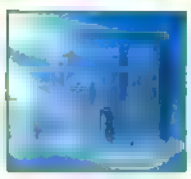
旧東京壊滅からの復興と遷都計画

長野県中部（中信地方）に位置する旧松本市。国宝の松本城天守をはじめとする国指定史跡、重要文化財を多数守り続けてきた歴史深い土地であり、工業、商業においても長野県の中核を担う大都市である。県庁所在地である長野市から75kmほど南西にあり、飛騨山脈と筑摩山地の間の松本盆地中央部に位置。市街地は開発により拓けた街並みが広がるものの、周囲には大自然も広がっている ――一都市としてのロケーションが優れていることは紛れもない事実である。しかし、この街が新たな首都になると予想し得た者が果たして存在しただろうか――。

西暦2000年。セカンドインパクトによって南極の氷が一瞬にして融解し、地軸が変動。それに伴い、全世界規模の異常気象が発生した。さらに旧東京は新型爆弾を用いたテロリストの攻撃も受けたため、都心部の地形は大幅に変化した。これらの影響により、旧東京は首都としての機能を失い、日本国政府（当時の日本臨時政府）は遷都計画を発動させることとなる。この遷都は日本国政府の意向により決定され、純粋に日本国内の問題として処理された。それだけに、セカンドインパクトの影響の大小、都市としての規模、交通網の発達、残存する首都圏の施設を活用可能か否か――といった現実的な条件のもとで厳密に首都候補が選定されたと考えるならば、旧松本市が選ばれたのは順当な結果であったといえよう。

なお、2015年以降、使徒との戦いにおいて主戦場となったのは、国連主導で建設が進められ、ゆくゆくは首都機能を移管される予定であった第3新東京市（実質的にはNERVの対使徒迎撃都市）であった。対使徒戦略においてはNERVの権限が優先される、という状況を歯痒く思う政府関係者もいたようだが、第2新東京市が使徒の標的にならず、さしたる被害が出なかったことは幸いだったというべきだろう。

■旧東京
■第3新東京市
■第2次遷都計画



西暦2000年に発生したセカンドインパクトとテロリストによる新型爆弾の投下により壊滅状態となったかつての首都。

セカンドインパクト後の日本 迅速な遷都計画の立案

未曾有の大災害セカンドインパクト。日本もその被害を免れることはできなかった。さらには、その直後にテロリストによる旧東京への爆弾投下という人災も併発。旧東京は50万人もの死者を出す壊滅的被害を被ったとされる。これを受け、当時の日本臨時政府は新首都を選定。長野県旧松本市を首都とする遷都計画を発動する。その選定手段、選定した人員などは明らかになっていないものの、迅速な決定により、2003年には第2新東京市が誕生。日本は本格的な復興への道をたどることとなる。

しかし、そういった地道な活動とは別に、未知の生物 ―使徒への対抗策の立案を急務とする動きが国連(あるいは背後にある組織)を中心に強まり、日本はその渦中に巻き込まれることとなる。

日本国としての復興と 国連の思惑による新たな遷都

2001年から始まった遷都を皮切りに、日本各地の復興は急ピッチで進められた。状況はおおむね良好で、2015年までには各地で生活に支障がない程度にまで復興が進んだ。しかし、その復興の最中、国連主導による新たな遷都計画 芦ノ湖付近を新首都とする第2次遷都計画が持ち上がる。日本国政府は国連の意図を汲まざるを得ず、第2次遷都計画を承認。以降、政府は独自に、「要塞都市」の様相を呈した特異な新都市の動向を監視していくこととなる。

山口県宇部市などの海岸線に位置する都市では いまだ、水没部の処理はなされていないものの 残された土地の修復は完了している 一般生活レベルで見ると 各地の復興は十分に進んでいたようだ

セカンドインパクトと 首都機能の移管計画

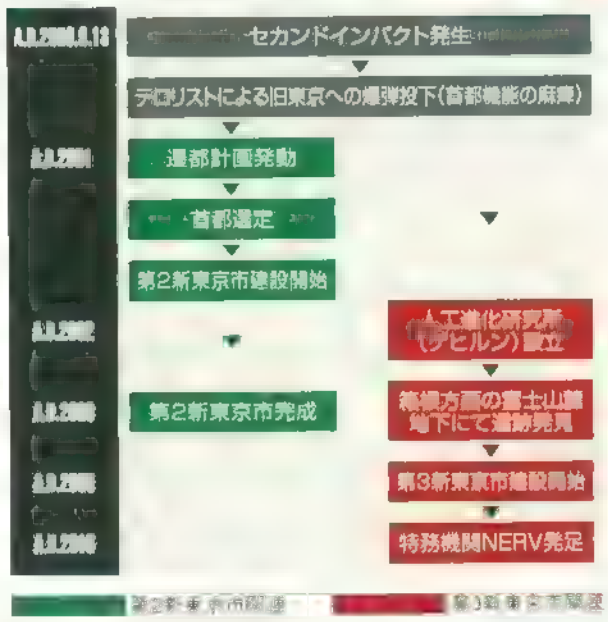
両暦2000年、大災害に見舞われた世界各地。東京が壊滅的被害を受けた日本では、その都心の復旧ではなく、首都機能を移管する新たな都市の建設が急務とされた。

大災害による東京の壊滅から使徒襲来まで――その15年のあいだに、日本では二度に渡って遷都計画が進められた。

セカンドインパクト直後の第2新東京市への遷都は、2001年から急ピッチで建設が進められ、翌々年には完成に至った。一方、第3新東京市の建設は2005年から開始されている。しかし、その全貌がNERVを中心とする「対使徒迎撃要塞」だったと考えるならば、建設計画自体はそれ以前に立案されていたと見るべきだろう。なお、第2次遷都計画の承認から使徒襲来までにはおよそ10年の期間があったが、それだけの年月をかけてもなお、第3新東京市は完成には至っていなかった。しかし、仮に遷都が完了し新首都への人口流入が進んでいたならば、被害は甚大なものになっていたとも考えられる。

遷都計画の発動から わずか2年という短期間で完成、至った第2新東京市 高層ビルが建ち並んでいる市街地の景観は、壊滅前の旧東京都心のイメージに近いものだ

●第2、第3新東京市建設の流れ



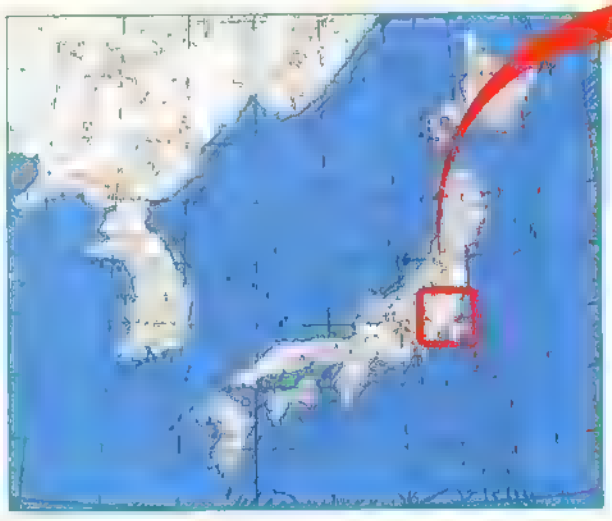
復興後の日本における 都市としての第2新東京市

火急の最重要事項となった遷都計画。新首都に選定されたのは、長野県松本市であった。この都市を元用するかたちで計画が進行することとなる。

関東地方においては海岸線の地形が大幅に変化したため、新設された都市、施設が多数存在する。そんな中、第2新東京市はあえて内陸部に居を構えることとなった。新首都に選定された旧松本市は、長野県の商業販売、工業生産額において、県庁所在地の長野市につぐ人口20万超の大都市である。建設計画がわずか2年で完了を見た理由は、旧東京から程近く、主要な幹線道路、鉄道網が整備されていたことなど、もともと都市としての完成度が高かったためと考えられる。

●「東京」の位置関係と主な周辺施設

新厚木などの駐屯基地や、国際空港も程近い旧東京と第3新東京市 それに比べ 第2新東京市周辺には目立った施設は存在しない ただし長野自動車道 新幹線など交通網は発達しているため 通常の都市としての機能性は十分であった



特記事項

日本国政府の動向

第3使徒襲来以降、使徒殲滅作戦における[illegible]の作戦指揮権を国連(実質的にはNERV)に委任することとなった日本国政府。一応の協力態勢を築くと同時に、政府は陰に使徒、NERVに対抗する術を模索していたようだ。戦略自衛隊という固有の戦力を有していたことと、NERV特殊監察部および日本政府内務省調査部に所属する加持リョウジを使っていることなどからも使徒とNERVの活動を独自に注視していた様子が窺える。

日本重化学工業共同体が開発した「J.A.(ジェットアローン)」。政府の意向を汲んだ形跡があることから、これも使徒、NERVへの対抗[illegible]

追加報告

第2東京大学について

首都機能移転に伴い官公庁もこの地に建設されたが、そのほかにも、首都にあるべきと考えられるさまざまな施設が第2新東京市に移転、新設されている。

例えば2001年以降に設立された「第2東京大学」は、日本社会に対してさまざまな社会的影響を与えてきた「東京大学」のうち都心部のキャンパス(本郷地区、駒場地区)が壊滅的打撃を受けたために移転、新設されたものと考えられる。都心に残された歴史ある学舎の復興ではなく移転、新設を選択したことは、あくまで第2新東京市が2003年以降の首都であることを如実に表した事例といえるだろう。

ちなみに、2015年にはNERVの主要人員となっている葛城ミサトと赤木リツコは、かつて第2東京大学に在籍していた。学生時代の暮らしぶりは不明だが、在学時は第2新東京市で暮らしていたか、通路はるばる通っていたものと思われる。

ミサトとリツコがはじめて出会ったのも、彼女らが第2東京大学に在籍していたころのことであった。なお、最初にアプローチをかけたのはミサトだが、声をかけた[illegible]との真意は不明である。

加持リョウジも加わり、学生生活を謳歌している様子も見受けられたミサトとリツコ。のちに3名ともがNERVの関係者となったのは、それぞれに何らかの因縁が[illegible]たからと見るべきだろう。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラ EVA製作委員会

新世紀年表
NEON GENESIS CHRONOLOGY

第二十一話
ダミーシステム、起動
DUMMY SYSTEM

A.D.2015 ●NERV本部

01 NERV本部、松代での異変を察知する

松代で起きた爆発事故のことは、すぐにNERV本部に伝わった。原因、被害の規模、共に不明。本部内が騒然とする中、冬月はただちに救助および第3部隊の派遣を行なうよう指示する。戦略自衛隊が介入してくる前に、すべて処理してしまおうというのだ。やがて司令室に新たな情報が入ってきた。事故現場に正体不明の移動物体が存在するというのである。使徒の識別パターンは青だが、MAGIによればその不明物体の識別パターンはオレンジだった。しかし、ゲンドウは第一種戦闘配置をきっぱりと命じる。

緊迫する司令室。モニターに映し出されているのは、未確認物体の識別パターンである

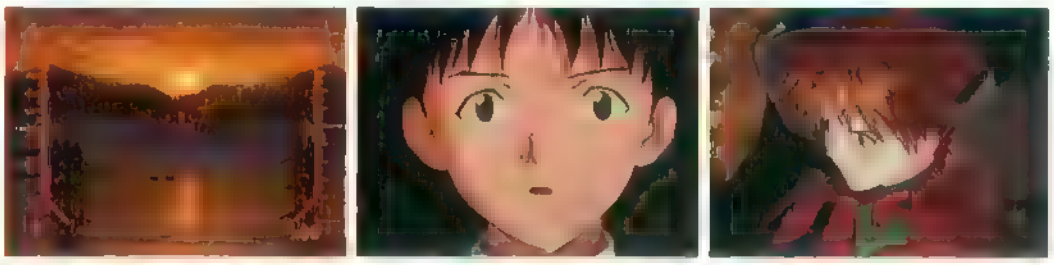
「地対地戦用意！」「EVA全機、発進。迎撃地点、緊急配置」「空輸開始は20を予定」。職員たちの声がせわしなく本部施設内を飛び交う。よもや3号機が使徒に乗っ取られているとは、彼らはまだ知るよしもなかった

A.D.2015

05 シンジ、第13使徒の姿を確認

シンジはいまだ不安を抱えたまま、初号機内で待機していた。「目標接近！」「全機、地上戦用意」。オペレーターの指示に目を上げ、モニターを見るシンジ。そこには、暮れなずむ空を背に、どこか見覚えのあるシルエットが徐々に近づいてくる様子が映っていた。「えっ？　まさか……」。シンジは目を見張った。「使徒？　これが使徒ですか？」「そうだ。目標だ」。シンジの問いに対して平静に答えるゲンドウ。「目標って、……これは、EVAじゃないか」。思いもよらぬ敵の姿に、シンジは呆然となった。

エントリープラグの中で、シンジは不安を抑えこもかのように目を伏せていた


山の向こうから地響きを立てつつ接近してくる人型をした目標。それがEVAであると気づき、驚きを隠せないシンジ。「まさか、……使徒に乗っ取られるなんて」とアスカ。トウジがパイロットであると知る彼女もまた、動揺していた

2015年

3号機のエントリープラグの射出に失敗

▶

EVA3機、野辺山方面に空輸される

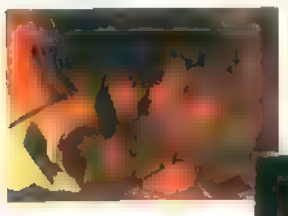
▶

NERV本部、松代での異変を察知する

A.D.2015 ●野辺山

02 EVA3機、野辺山方面に空輸される

「松代で事故!?」迎撃地点での待機中、事故のことを知ったシンジは驚きの声を上げた　現場にいたミサトたちの安否はまだ不明と聞き、動揺をあらわにするシンジを、アスカが叱咤する。「なにくしくし言ってんのよ！　いまあたしらが心配したって、なんにもならないでしょう？」「使徒相手に僕らだけで……」、なおも言い募るシンジに、レイが教えた。「いまは碇司令が直接指揮を執ってるわ」。



迎撃地点は野辺山付近に定められた　周囲が徐々に夕日に赤く染まりゆく中、3機のEVAが接近してくる相手を待ち伏せる

ミサト不在のまま戦闘を行なうのか？　狼狽するシンジは　ケンドウが陣頭指揮を取ると聞き、「父さんが？」と小さく目を見張る

A.D.2015 ●NERV本部

03 3号機のプラグ射出に失敗

一方、司令室では、ようやく物体を映像で確認していた。まぎれもない3号機の姿にとよめく職員たち。「やはりこれか」。正体に推測がついていた冬月は静かに呟いた。「活動停止信号を発信。エントリープラグを強制射出」。ゲントウは即座に命令を下したが、プラグは機体から離れない。「ダメです。停止信号、およびプラグ排出コード、共に認識しません」。マヤが緊張した声で報告した。

モニターに映し出された小高い山　黒々とした稜線の向こうからゆっくりと姿を現したのは、まぎれもなくEVA3号機だった

粘つく糸状物質で覆われた3号機のエントリープラグ。強制射出のプログラムを打ち込んでも、失敗に終わってしまった

04 ゲンドウ、3号機を第13使徒と識別

「パイロットは？」「呼吸、心拍の反応はありますが、おそらく……」。ゲンドウの問いに言葉を濁す日向。ゲンドウの決断はすばやかった。「エヴァンゲリオン3号機は現時刻をもって破棄。目標を第13使徒と識別する」。冷淡な言葉に職員たちが驚きのまなざしを向ける。3号機にはまたフォースチルドレンが乗っているのだ。だがケンドウはあくまでも淡々と言った「予定通り、野辺山で戦線を展開。目標を撃破しろ」。

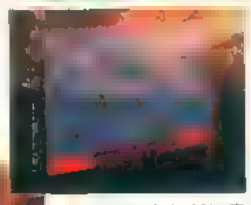
トウンが搭乗したままの3号機を、これより第13使徒として識別するとゲンドウは冷たく言い放った　その表情に揺らぎはない

「しかし　　」上官の判断に動揺する日向をはじめとする職員　命令とはいえ非情な指示に冷静でいられなかったようだ。

●野辺山

06 EVA弐号機、沈黙

「やっぱり人が、子供が乗ってるのかな。……同い年の」「あんたまだ知らなかったの!? 3号機にはね……!?」。シンジの呟きを聞いたアスカがモニター越しにどなった直後、映像が悲鳴と共に途切れた。3号機の一撃で、弐号機があっさり倒されてしまったのだ。



アスカはシンジに真実を告げようとするのだか・

一瞬にして弐号機は地に横たわることとなった　その傍らを、3号機が進んでいく

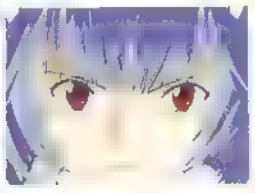
07 EVA零号機、第13使徒と交戦

3号機は一気に零号機へと跳びかかってきた

弐号機を大破させた3号機は、零号機のほうへ移動していった。ゲンドウがレイに指示を出す。「レイ、近接戦闘は避け、目標を足止めしろ。いま初号機を回す」「了解」。山陰に隠れた零号機の前を通り過ぎていく3号機。その背にレイは銃口を向ける。「乗っているわ。……彼」。レイがそっと呟いたとき、不意に目標が足を止めた。そして、もがき苦しむような動きを見せたかと思うと、3号機は突然に跳躍。たじろぐ零号機へと襲い掛かってきた。

ゆっくりとした足取りで進む目標を、ライフルを構えた零号機が見守る。

トリガーにかかった指が震えるトウジが中にいると確信するレイは、いつになく表情を険しくしていた。



突然、身体をよじり始めた3号機。使徒の意図と中にいるトウジの意思が葛藤しているのか。

急に宙に舞った3号機に息を飲むレイ。目標が視界から消えたその直後、零号機を衝撃が襲った。

EVA零号機、第13使徒と交戦

EVA弐号機、沈黙

シンジ、第13使徒の姿を肉眼で確認

第13使徒の殲滅を命じるゲンドウ、3号機を第13使徒と認定

A.D.2015

第13使徒 零号機を攻撃

敵の急な動きにレイはとっさに反応できなかった。
間合 轟音が響き 気づくと 零号機は地面に組み伏せられていた 四肢は強い押さえられ まったく身動きがとれない 3号機は腕から粘液を出すと 零号機に浴らせはじめた そのまま零号機をそ乗っ取ろうというのだ 零号機と神経接続しているレイは 左腕を襲った激痛に悲鳴を上げる。

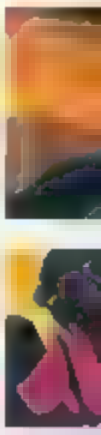
零号機の左腕部を切断

マヤが叫んだ。「左腕に侵徒侵入。神経節が侵されてゆきます」「左腕部 切断 急げとケントウ しかし 神経接続を解除しないと 」思わず振り返るマヤたちが 切断た」ときっぱりと断じるゲンドウの意に従うほかなかった。すぐに零号機の左腕が切断される 感覚を共有していたレイは、新たな激痛にさらなる悲鳴をあげた。

レイ 侵徒と対峙

「零号機、中破。パイロットは負傷」「そんな 」状況に呆然とするシンジ その耳にゲントウの声が入ってきた 目標は接近中た あと20で接触する お前が倒せ」「でも 目標 て言った て 」そこにいるのは3号機だ。人か乗っているのではないのかそれも自分と同年齢の子供が。シンジが逡巡する間も3号機は前進し、ついに2機は対峙した。

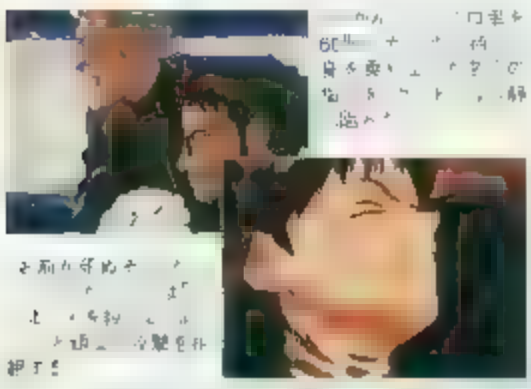
3号機



A D 2015

ケンドウの命令に抗え

このままではシンジの命が危う。 冬月がシンクロ率を下げるよう指示するが、ゲントウはそれを止めシンジに問いかけた。「シンジ。なぜ戦わない」「た て人か乗ってるんたよ、父さん かまわん そいつは使徒だ。我々の敵だ」「でも ……でもできないよ! 助けなきゃ。人殺しなんてできないよ!」。苦しみながらもシンジは言い張 た



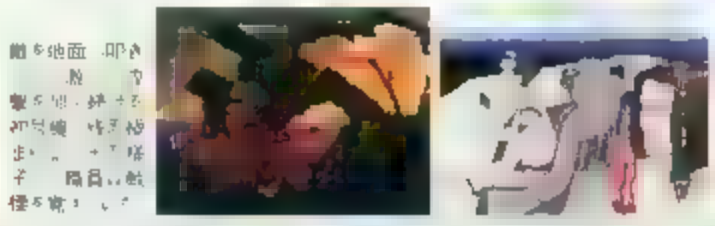
ダミーシステム 起動

あくまでも抗うシンジにゲントウは痺れを切らした「かまわん パイロ トと初号機のシンクロを全面カ ト」 そのまま回路をダミープラグに切り替えろとゲンドウは職員に指示する。「しかし、ダミーシステムにはまだ問題も多く。赤木博士の指示もなく……」。マヤが問い返すが、ゲンドウは言い放った。「いまのパイロ トよ は役に立つ やれ」

初号機 第13使徒を撃破

戦闘は凄惨に終わった

ゲンドウはダミーシステムに使徒の攻撃を命じた 初号機か3号機の首を掴み返し、瞬く間にパワーバランスが逆転する。だが3号機の首をへし折っても、初号機は攻撃を止めなかった シンジは必死に初号機を止めようとするが 機体にはなんの反応もない。やがて初号機はエントリープラグをつかみ出した。「やめろおおおお!!」絶叫するシンジの前で 初号機はプラグを無残にも握りつぶしてしまう



2015年 第13使徒 零号機を襲う

- シンジ、第13使徒との戦闘を拒否
- シンジ、第13使徒の背部にエントリープラグを確認
- 第13使徒、EVA初号機を攻撃
- シンシ、第13使徒と対峙
- ケントウ、零号機の左腕部の切断を指示

●野辺山

11 第13使徒、初号機を攻撃

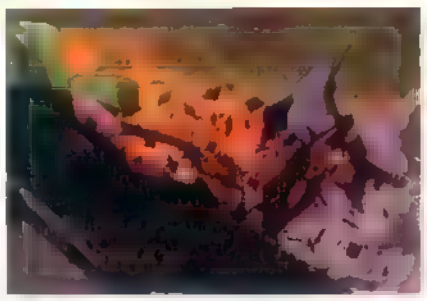
3号機の先制攻撃に、初号機もまた 地に倒された

シンジは額に汗を浮かべ、次の動きを起こすことができぬまま、目標を凝視していた。これは使徒だとわかっていても、どうしてもライフルのトリガーを引くことができない。もしも人が乗っていたら、自分と同じ子供を、仲間を殺してしまうことになるのだ。そのとき3号機が天を仰ぎ、鋭い咆哮をあげた。宙に飛び上がり、一気に初号機へと襲い掛かってくる3号機。シンジはとっさにライフルを前に突き出して盾にする。だが、強烈な踵りがそこへ炸裂し、初号機はその勢いに負けると、地響きを立てて地面へ転倒してしまった。

トリガーにかけた指を引くことができず 荒い呼吸を繰り返すシンジ

口を開け、高らかに雄たけびを上げたかと思うと 3号機の巨体がくるりと宙を舞い、まっすぐ初号機へ向かって飛び込んできた

反射的に防御姿勢をとった初号機だったが、体重の乗った攻撃はライフルごと初号機を押し倒した



勢いよく地面に倒れこんだ初号機。苛烈な衝撃のせいで、ライフルも使用不能になってしまう

●野辺山

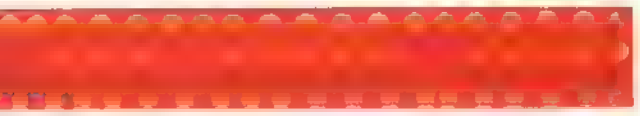
12 シンジ、エントリープラグを視認

初号機に一撃を加えた3号機は、水田へ着地した。四足にかがむ3号機の背がモニターに映っているのを目にして、シンジははっとする。「エントリープラグ。やっぱり、人が乗ってるんだ……！」。動揺するシンジの前で、3号機は腕を急激に伸ばし、初号機の首を掴んできた。そのままギリギリと締め上げられ、シンジはうめき声をあげる。

3号機の折り曲げた背 そこに間違いなくエントリープラグがあるのを シンジははっきり見てしまった

いきなり腕をゴムのように伸ばしたかと思うと 初号機の首を掴らえる3号機 それでもシンジは戦うことができなかった

●野辺山



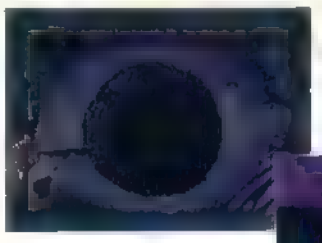
ついにプラグを掴み出した初号機にシンジは叫ぶか・・・

ぐしゃりとつぶされるエントリープラグ LCLが溢れ出す

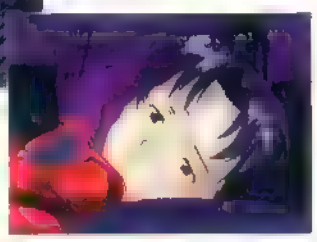
A.D.2015 ●松代

14 使徒殲滅作戦 終了

一方、松代では爆発事故の救助活動が行なわれていた救護台の上で目覚めるミサト。「生きてる……」。小さく呟いた彼女の傍らには、加持がいた。「よかったな、葛城」。いたわるように優しく微笑む加持。「リツコは？」「心配ない。きみよりは軽傷だ」。安堵するミサトだったが、3号機が使徒として初号機に処理されたと聞くと、ショックを受ける。「私……シンジくんになにも話してない」



松代第2実験場の現場には大きなクレーターが開いていた。先のネバダ支部の消滅事故をほうふつとさせる無残な傷跡である



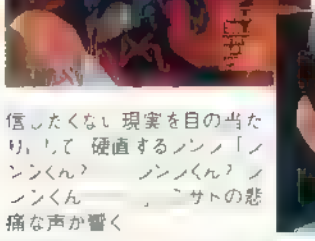
加持から3号機の顛末を聞きミサトは顔をゆがめる。なにも知らないシンジをトウジと戦わせてしまったのだ。悔恨がミサトを包んだ

A.D.2015 ●野辺山

17 シンジ、3号機のパイロットの正体に気づく

コクピットですすり泣くシンジの下へミサトから連絡が入った。大事なことを伝えられなかったと謝るミサト。そのとき、パイロット生存を伝える放送が入ってきた。「生きてた!?」。顔を明るくするシンジ。だが、ひしゃげたプラグの中に見えた人物を見て、その顔は強張る。「トウジ？」。鼓動が激しく打ち出す。必死に呼びかけるミサトの声も聞こえなくなり……そして、シンジは絶叫した

作業員がプラグ内から引きずり出したフォースチルドレン それは、全身に血をにじませぐったりとなっているトウジだった



信じたくない現実を目の当たりにして硬直するシンジ「シンジくん？ シンジくん？ シンジくん」。ミサトの悲痛な声が響く

シンジ、3号機のパイロットの正体に気づく

使徒殲滅作戦、終了

初号機、第13使徒を殲滅

ダミーシステム、起動

シンジ、ゲンドウの命令に抗う

シンジ、第13使徒との戦闘を拒否

©GAINAX・カラー/Project Eva ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

Illustration by K2 Shoukai

パイロット装備

THE PILOT EQUIPMENT

パイロット――日本においては特に航空機の操縦士の呼称だが、汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオンの操縦者たちも同様の呼称で呼ばれることが多い。その装備は戦闘服であるプラグスーツ、頭部に装着するインターフェイス・ヘッドセットのみだが、その中にはEVAを操縦し、使徒との戦闘に耐えるためのさまざまな機能が集約されている。

EVAの操縦者のように「特殊な環境」で活動する存在としては宇宙飛行士――とくに船外活動を行なう搭乗運用技術者（ミッション・スペシャリスト）が挙げられるが、彼らは「気密性、気圧の調整」「空気の循環」「体温調整」「飛来物からの保護」を処理する機能と、それらの電源となる装置を含むEMU（船外活動ユニット）システムを装備している。ただしそういった数々の機能を内包するために、その意匠は大仰なものとなっている。EVA操縦者用のプラグスーツはそれら機能のほぼすべてを有しているにもかかわらず、非常に活動しやすい意匠となっており、製作したNERVの技術力の一端が窺える。

もうひとつの装備であるインターフェイス・ヘッドセットは、0.000000001％ともいわれているEVAの起動率の低さをカバーし、起動後の安定した稼働を補助する装置である。実質的にはEVAと操縦者の神経パルスレベルでの同調（シンクロ）を補助する装置と考えられるが、その機構の詳細はNERVの開発部のみが知るところとなっている。

NERVの技術力を結集したパイロット装備の機能の充実ぶりは驚嘆に値するが、裏を返してみれば、EVAに搭乗した操縦者はそれだけ特殊な状況下に置かれるということである。さらにEVA自体にも未知の部分が多かったため、斯様に機能を詰め込んだパイロット装備であっても、あくまで必要と「考えられる」機能を有していたに過ぎないともいえるだろう。

ちなみに第12使徒レリエルとの戦闘においては、初号機が使徒に取り込まれるという不測の事態が発生した。この際、碇シンジは16～17時間のあいだ、プラグスーツの機能のひとつである生命維持システムを使用している。その危険域から無事生還できた直接の要因は初号機の暴走であるが、その暴走が起きるまでの長い時間、パイロット装備の機能が彼を守りぬいたことは紛れもない事実である。

RELATED

- 適格者
- EVA
- L.C.L.
- シンクロ

EVAの操縦者となる資格を持った子供　ファーストチルドレンセカンドチルドレンというように、選出順に呼称される。

プラグスーツ

機能と特徴

EVAの操縦者が着用する戦闘服――それがプラグスーツである。基本的に激しい戦闘から操縦者を保護するための着衣だが、操縦に不可欠であるEVAとの神経接続のサポート、生命維持システムなどのさまざまな機能を有している。なお、プラグスーツを着用していなくてもEVAの操縦自体は可能だが、あらゆるサポートを受けられない状態での戦闘は、緊急時にのみ許されると考えるべきだろう。ちなみに、神経接続を効率よく行なうため、操縦者はすべての着衣を脱いでからプラグスーツを着用する。

通常時はだぶついており、体を通しやすい形状となっている。その後はスーツフィットスイッチを押せば体に密着した状態となるので、わずかな時間での装着が可能だ。

通常時は何も表示されていない手の甲部分。しかし、生命維持システム使用時などには、残り時間などの情報を表示するためのハンドモニターが出現する。

■プラグスーツ

エントリープラグ内は呼吸、衝撃吸収、神経伝達を助けるL.C.L.で満たされている。さらに、プラグスーツを身に着けることで、操縦者は万全の態勢で使徒と相対することが可能。なお、プラグスーツについた丸いパーツは、停止した心臓を蘇生させるため、電気ショックを発生する装置。基本的にEVAで出撃する際はプラグスーツ着用が義務づけられる。

プラグスーツの主な機能

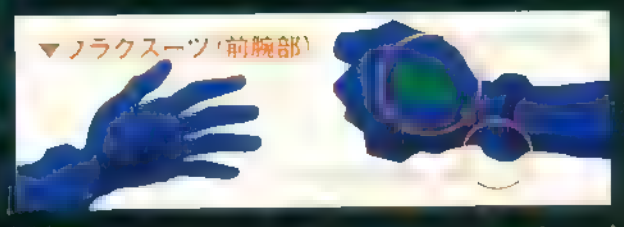
全般的な機能

EVA搭乗時に操縦者が着用する戦闘服として、搭乗者への衝撃、温度変化などを和らげる。そのほかにも生命維持システムなどの各種モードが利用できるほか、神経接続のサポートを行なう機能も有している。

胸部はプロテクターの役割を果たし、中央の丸いパーツは大電力が蓄えられている。

スイッチ/モニター

プラグスーツを操縦者の体にフィット(あるいはその状態を解除)させるスーツフィットスイッチと、各モード情報を表示するハンドモニターは、確認しやすい手の周辺に存在する。



インターフェイス・ヘッドセット

機能と特徴

EVAを操縦するうえでもっとも重要となるシンクロを補助するため、操縦者が頭部に装着する装置――それがインターフェイス・ヘッドセットである。その機構は明らかにされていないが、EVAとシンクロする際にパイロットの神経パルスをピックアップ、さらに増幅する重要な装置と考えられる。ただし、装着せずに実験を行なったケースもあり、EVAとのシンクロを図るうえで必須の装置ではないようだ。なお、基本的な形状はカチューシャ型だが、惣流・アスカ・ラングレーのものは髪留め型であり、彼女はEVA搭乗時以外にもアクセサリーとして愛用している。

操縦者ごとに基調色が異なるインターフェイス・ヘッドセット。その色は基本的にプラグスーツとセットになっているようだ。

プラグスーツを身に着けていない場合でも、ヘッドセットは必ず装着している。その違いからも、この装置の重要性が見て取れる。

■インターフェイス・ヘッドセット

頭部に装着するインターフェイス・ヘッドセット。この装置は、搭乗者の脳から発せられる神経パルスを増幅する装置であり、一般的な機器でたとえるなら「電波増幅器(ブースター)」のような役割を果たすと考えられる。機能に差異はないが各搭乗者ごとに用意されており、基調色も搭乗者あるいは対応するEVA各機に準じたものとなっている。

インターフェイス・ヘッドセットの主な機能

脳から発せられる神経パルスには個人差があるため、インターフェイス・ヘッドセットも各操縦者に適応するよう調整がなされている。装置が検出した操縦者の神経パルスは増幅され、最終的にEVAが受信することとなる。なお、実際の装置に相当する部分は、髪のあいだから覗く両側の先端部分のみ。そのほかの弦部分で装置を固定し、前頭部(アスカは例外的に側頭部あるいは後頭部)にフィットさせている。

インターフェイス・ヘッドセットは、専用のものを装着しない限り、増幅効果は望めないと考えられる。第6使徒との戦闘時、弐号機に乗り込んだシンジも、同装置は装着していなかった。

追加報告

惣流・アスカ・ラングレーのインターフェイス・ヘッドセット

アスカは通常生活においても、インターフェイス・ヘッドセットを髪留めとして使用している。機能から推察するに精密機器であることは間違いないが、故障したという事例は報告されておらず、相応の耐久性を持つ機器と考えられる。なお、EVA関連の機器を持ち出すことの是非は問われるべきだが、上司が暗黙のうちに認めているため、特に問題視はされていないようだ。

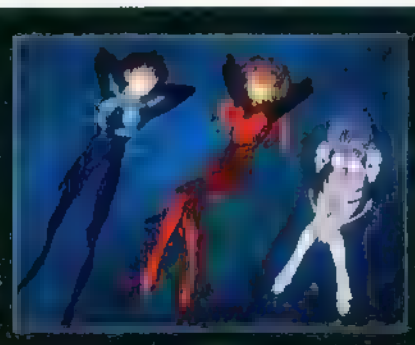
「EVA操縦者」という自尊心のあらわれとも取れる髪留め代わりのインターフェイス・ヘッドセット。なお、その位置から、他のインターフェイス・ヘッドセットとは弦部分の形状が異なるか、それ自体がないものとも考えられる。

パイロット装備 Sheet 16

HE PILOT EQUIPMENT

プラグスーツの意匠

プラグスーツの機能自体に差異はないが、その意匠は搭乗者と対応するEVA各機に準じたものとなっている。また、装備する搭乗者が男性、女性かによって胸部プロテクターの構造が大きく異なり、男性の場合は重厚感のある形状だが、女性の場合はバストなどを考慮したものとなっている。なお、各プラグスーツの胸元、背面部プロテクターには、搭乗するEVAと同じ番号が振られており、搭乗者専用のものであることを表している。



女性用プラグスーツでも、アスカとレイのものでは首と胸周りの意匠が異なる。逆に男性用プラグスーツは差異が見受けられないため、同一規格のものを汎用しているとも考えられる。

綾波レイ

白を基調色とした零号機搭乗者用のプラグスーツを身に着けている。大腿部から臀部にかけての意匠が男性のものとは異なるが、これは骨格などの相違を考慮したものと思われる。

第3使徒襲来時、大怪我を負って搬送されていた際には、プラグスーツ胸部が存在しなかった。意図的に切り取られたのでなければ、もともと胸部はパーツ化されており、着脱可能であったものとも考えられる。

碇シンジ

白を基調色とし、初号機搭乗者用のプラグスーツを身に着けている。エアインテークのような部位を持つ胸部プロテクターは、女性用と比べていかにも防具といった形状である。

しばらくのあいだ、男性の適格者はシンジのみだった。そのためかは定かではないが、後の綾原トウジ、浦カヲルらが身に着けた男性用のプラグスーツの意匠は、初号機搭乗者用のものとほぼ

惣流・アスカ・ラングレー

赤を基調色とした弐号機搭乗者用のプラグスーツを身に着けている。胸部プロテクターとその周辺はアスカに合わせて作られているため、意匠は零号機搭乗者用と大きく異なっている。

通常、鳩尾付近には特殊な形状のパーツがついているが、アスカのもののみ配置が異なる。弐号機と同じく制式モデルであった、あるいは意匠決定がドイツ支部で行なわれた、などの理由が影響したものと思われる。

その他の適格者

EVAに搭乗した期間はごくわずかだったが、トウジ、カヲルの両名もプラグスーツを身に着けた。色調こそ異なるものの、その意匠は初号機搭乗者用のプラグスーツとほぼ同じものだった。

カヲルのプラグスーツのみ、胸元、背面部プロテクターに番号が振られていない。主な理由としては僅が最遅NERVに送り込まれたこと

実機が決定していなかった

意匠と機能

意匠（デザイン）とは、実用面などを考慮したうえで物品の形態を設計することである。パイロット装備、特にプラグスーツの意匠も例外ではなく、まずは機能性、次に形状や模様といった外見上の特徴づけがなされている。

ちなみに意匠をまったく違う角度から見れば、対象とするものを「記号化」する手段にもなり得る。パイロット装備の機能面からは各個の差異は認められない。逆に意匠の大部分が搭乗者と対応するEVA各機に準じたものであることを考えると、NERVにおいては操縦者とEVAはつねに一括して処理されるべき記号として扱われていたのかもしれない。

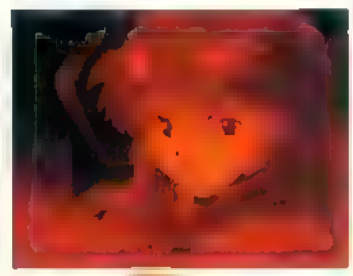
想定された搭乗者以外でも、スーツを着ることそれ自体は可能。第6使徒との戦闘時、シンジは弐号機搭乗者用のプラグスーツを身に着けた。

プラグスーツは伸縮自在だが、プロテクター部はその限りではない。そのため女性用のプラグスーツは、個々の体格に合わせた形状をしている。

追加報告

局地仕様のプラグスーツ

NERVにおいては、通常のものとは異なる局地仕様のプラグスーツも開発されていた。第8使徒捕獲作戦においてアスカが着用したプラグスーツは、耐熱耐圧仕様となっており、1,800m程度の大深度潜行からアスカの身を守った。なお、アスカ自身は「プラグスーツというよりサウナスーツ」という軽い感想を口にしているが、これはプラグスーツの性能の高さを物語るコメントといえるだろう。



潜行による圧力上昇と高熱により、局地戦用EVA Dの装備格納装置の循環パイプは破損も見られた。局地仕様装備なしでの作戦遂行は困難であったと予想される。

←↑プラグスーツ
（耐熱耐圧仕様）

Illustration by K2 Shouka

出撃時、パイロット装備を装着して戦いに臨む適格者たち。とくにインターフェイス・ヘッドセットは、操縦者の「意思」で動作を決定するというEVAの操縦システムにおいて重要な役割を果たしている。

パイロット装備とシンクロ率

操縦時のサポート機能

先にも述べた通り、あたつのパイロット装備は、EVAを操縦するために必要なシンクロをサポートする機能も有している。EVAの行動は基本的に操縦者の「操作」ではなく「意思」で決定されるため、シンクロ率の高さが正確な意思の伝達、EVAの動作に直結する。パイロット装備がなくても操縦自体は可能であるものの、効率の低下は否めないだろう。

搭乗者とEVAの神経伝達を円滑にするため、緊急時以外はインターフェイス・ヘッドセット、プラグスーツ等で装着する。

装備なしで行われた実験では、操縦者は一様に違和感をおぼえた。これは調整なしの神経接続、伝達がなされたためと考えられる。

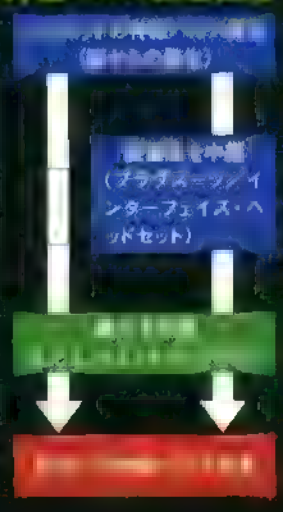
EVAとの神経接続における装備の役割

EVAの起動、操縦を可能にするためには、EVAと操縦者の神経パルス（脳より発せられる微小な電流）を双方向に増幅、伝達させることにより、神経回路を同調させる必要がある。パイロット装備にはこの神経接続、伝達をサポートするという重要な役割があるため、緊急時でもない限り、EVA搭乗時には極力装着すべきものといえるだろう。

使徒との初戦において、シンジはインターフェイス・ヘッドセットのみを身に着けてEVAに搭乗。不完全な状態で戦闘に臨んだ。

パイロットからの神経パルス伝達経路

操縦者からの神経パルスは、要約するとL.C.L.→エントリープラグ→EVAという経路で伝達される。装備品を中継する場合はL.C.L.を介する前に神経パルスが増幅、最適化されるため、EVAをより操縦しやすい状態となる。なお、精神汚染の危険性が高くなるため、EVAからの神経パルスはあえて増幅していないとも考えられるが詳細は不明である。



特記事項

複数での搭乗について

EVAの心臓部に相当するコアの各設定は、専属操縦者に適合するよう調整されている。そのため、複数の人間がエントリープラグ内に搭乗した場合、電気信号の乱れ、不要なノイズか混ざり込むこととなり、基本的に操縦しにくい状態となる。

ただし、適格者同士か搭乗した場合はその限りではなく、ある程度の同調かなされた場合　逆にシンクロ率が急上昇する場合もあるようだ

一般人でも適格者でも　同調しない場合はノイズの発生原となる　ノンノか弐号機に搭乗した際も　最初は思考ノイズなとか発生していたようた

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

CATEGORY ぬ Glossary

ぬいぐるみのサル

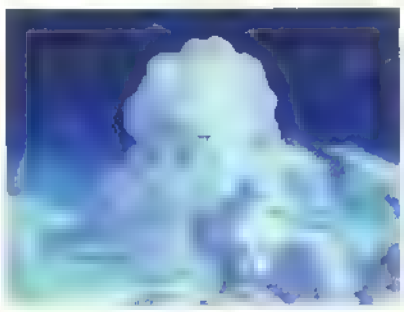
惣流・アスカ・ラングレーが、継母からプレゼントされたサルのぬいぐるみのこと。幼いアスカはこれを引き裂き、その理由を問う父に対し、ただ「いいの」とだけ答えている。第15使徒アラエルによって暴かれたアスカの精神世界で、14歳のアスカはぬいぐるみを踏みつけ、「私は子供じゃない 早く大人になるの。ぬいぐるみなんて、私にはいらないわ」と、引き裂いたときの思いを代弁している。同時に「パパもママもいらない。ひとりで生きるの」と決意せざるを得なかった、幼い頃の“イヤなこと”の記憶を無理矢理に掘り起こされてしまう

子供であることを嫌い、早く大人になりたいアスカにとって ぬいぐるみは幼い自分や嫌な思い出の象徴であり、ぬいぐるみを引き裂くことでそれらと決別したのだろうか

CATEGORY ね Glossary

ネオパン400

3号機を輸送した長距離輸送機を管制する、地上管制塔のコードネーム。輸送機のパイロットが前方航路上に積乱雲を発見した際、その気圧状態は問題なしとして、航路変更せずに到着時間を遵守するようにとの指示を出した。しかし、結局のところ2時間の遅れで到着している。なお「ネオパン400」は写真のフィルムのこと。富士フイルムの白黒フィルムブランドと同名



気圧的には問題なかったためネオパン400は積乱雲の通過を許可した。のちに3号機を乗っ取るバルディエルは、このタイミングで寄生したと考えられる

ネクローシス

受動的に発生する細胞死。けがや火傷、毒物などの外的要因による細胞の壊死現象である。対して、遺伝子レベルで制御するプログラムされた自律的細胞死をアポトーシスという。人造人間であるEVAの身体の大部分が生体部品で構成されているためか、修理やメンテナンスなどには「ネクローシス作業」「アポトーシス作業」等これら生物学用語も用いられているようだ。また、ハーモニクステストの際にも使われている。その際はネクローシス作業が終了した旨のアナウンスに続き、「可逆グラフ、測定完了」「3機共にシンクロ位置に問題なし」とある。

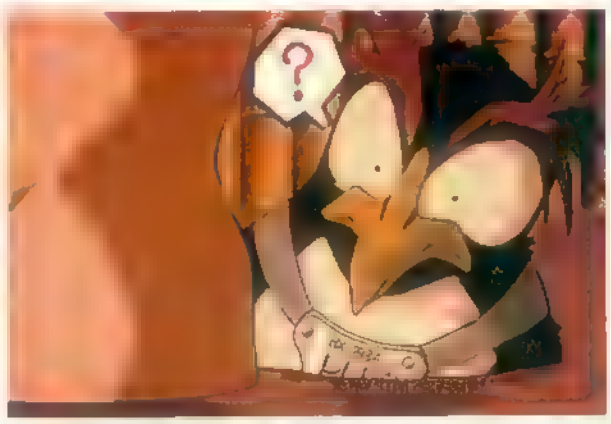
ネコの小物

赤木リツコが好んで集めているらしい小物類。彼女の仕事場の机の上には白と黒のネコの置物のほか、ネコの絵が描かれたマグカップも置かれていた。祖母のいる実家でネコを飼っていたことからもネコ好きだと推測される。また、伊吹マヤも、発令所で使用しているクッションやメモを止めるマグネットなどにネコのプリントがされているものを好んで使っている模様。それはマヤがリツコを尊敬の対象としていることと関係があるのかもしれない なお、葛城ミサトは「ネコで寂しさ紛らわせてたヒト」とリツコに対し辛辣な言葉を投げかけており、ネコは彼女の心の拠り所のひとつだったのだろう。

リツコの好みは友人も知るところらしく 加持リョウジはおみやげとしてネコの絵柄がデザインされたペンダントを彼女にプレゼントしていた

熱膨張

一定の圧力下において、温度の上昇と共に物体の体積が増大する現象。惣流・アスカ・ラングレー曰く「物ってのは温めれば膨らんで大きくなるし、冷やせば縮んで小さくなる」こと。熱によって分子運動が激しくなり、その結果、分子間の距離が大きくなるために発生する。その膨張率は物体により違いがあるため、異なる物体同士で組まれた構造は熱膨張によって隙間やヒビなどのクラックが起きてしまう 修学旅行に行けず、トレーニングプールで戦闘待機中だった碇シンジが熱膨張の問題に取り組んでいた。その際にアスカが設問について聞いたことが、第8使徒サンダルフォン殲滅のきっかけとなる。火口内という高温高圧下に耐える身体を持つ同使徒に対し、冷却用の液体を口内に注入して内と外に急激な温度変化を起こす。それによりサンダルフォンの身体強度に変化をもたらし、脆くなったところにプログレッシブ・ナイフを突き入れて殲滅した



サンダルフォン殲滅後に温泉で過ごすシンジは、女湯から聞こえるアスカとミサトのじゃれ合いに身体の一部が反応。これもある意味“熱膨張”なのかも？

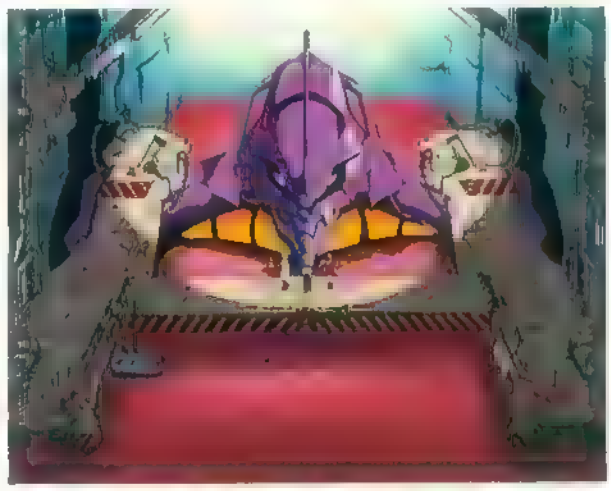
根府川

神奈川県小田原市にあった地域。相模湾に面しており、JR東海道線の唯一の無人駅、根府川駅があった。セカンドインパクトの影響により、2015年時は海の底となっているらしい。第3新東京市立第壱中学校で教鞭を執る老教師が以前住んでいた。

老教師が授業中にセカンドインパクトの話に脱線した際、その頃に自分が住んでいた根府川のことにまで話が及ぶよった

NERV

使徒と呼称される敵性体の調査や研究、殲滅を目的とする特務機関。国連直属の非公開組織で、超法規的に保護された国際武装集団である。国連からの直接的な影響力は全くなく、実質ゼーレの指揮下にある。数々の特権を持つためか、国連軍や日本国政府など他組織とは折り合いが悪い 2010年、その前身となった組織ゲヒルンの解体と共に成立。この折、ゲヒルンの職員は死亡した赤木ナオコ博士以外はそのままNERVへ移籍する形となった。日本国に置かれた本部のほか全世界的に支部を持っており、アメリカ第1支部と第2支部、ドイツ第3支部、中国支部が存在。表面的には使徒の殲滅と、それと関連してサードインパクトを未然に防ぐという目的を持つが、その真の目的は上位組織である人類補完委員会を通し、ゼーレによる指示のもと人類補完計画を遂行するというものであった。超法規的に保護されている組織だが、その抑止のための法整備も為されており、A-801によってNERVの法的保護の破棄も可能。これを用い日本国政府は戦略自衛隊による本部の直接占拠を図った なお、「NERV」とはドイツ語で「神経」の意



人造人間エヴァンゲリオンを含め、使徒と渡り合うための超技術を保有。さらに国連の名の下に様々な組織の協力を得られる組織である

ネルフ、誕生

第弐拾壱話のサブタイトル。英文サブタイトルは「He was aware that he was still a child.」。邦訳すると「彼は自分がまだ子供であることを意識した。」となる。これは、碇シンジが回話でこぼす「その時僕は、ミサトさんから逃げることしかできなかった。他には何もできない、何も言えない子供なんだと……僕はわかった」という独白のことを指すと考えられる。

加持リョウジの身に起こ ̄ ̄ことを察 ̄ ̄嗚咽する葛城ミサト その姿を見たシンジは彼女に何もできない無力さを痛感したのではないだろうか

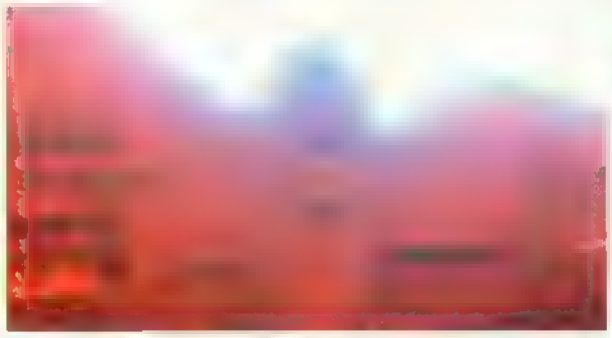
NERVのエンブレム

1枚の葉とNERVという文字、英語の一文を用いてデザインされたNERVの紋章。右上部にあしらわれた木の葉はイチジクの葉である。これは知恵の実を食べたアダムとイブが羞恥心を知り、自らの性器を隠すために使ったのがイチジクの葉だというエピソードが「旧約聖書」にあり、ひいては知恵の実を獲得した人類を象徴する図案とも推測される。なお、転じてイチジクの葉は罪の象徴でもあるという。中央部には組織名である「NERV」の文字が大きく置かれ、さらにその下には「GOD'S IN HIS HEAVEN ALL'S RIGHT WITH THE WORLD」という英文が半円形に配置されている。この一節は、英国ビクトリア朝時代の詩人ロバート・ブラウニングによる「ピッパが通る」からの引用文。邦訳は「神は天にいまし、世は全てこともなし」

背景色は特に定められていないが意匠自体は赤で染め抜かれている

NERV本部

特務機関NERVの中核となる総本部。葛城ミサトは「世界再建の要、人類の砦」と碇シンジに称していた。本部は日本国に置かれ、第3新東京市地下のジオフロントに設けられている。総司令は碇ゲンドウ、副司令は冬月コウゾウが務める。本部には管理部、総務部、調査部、広報部、戦術作戦部、科学調査分析部、技術開発部、保安諜報部、特殊監察部、医学部など多くの部署を持つ。また、松代第2実験場や富士第3実験場など関連施設も多く抱えているようだ。本部施設は、箱根の地下にある何者かが残した地下空洞を流用して建造されており、ピラミッド状の建造物とその下にあるセントラルドグマから成る。その内部はかなり広いようで、西棟B-09の案内板にはPost Office、Data Center Science Hall、Cafeteria、Restroom、Lockerや、待ち合わせ場所と思われるSilver Bellなどの表記が確認できる。第3新東京市からの基本的な通行手段は、ジオフロント外周を螺旋状に走るリニア式モノレールを使う。それ以外に、緊急時のためR-07など非常用のルートが通じている。



ジオフロントの球形空間は黒き月と呼ばれるリリスの卵であり、NERV本部はそこに築かれたものであった

NERVマニュアル

初めてNERVを訪れた碇シンジに葛城ミサトが手渡した資料。NERVに関する基本情報が収められた勤務者用のファイルと思われる。NERV自体が一般に非公開の秘密組織であるため、その資料もまた極秘扱い。裏表紙には「極秘」「TOP SECRET」の文字が書かれ、管理のための通し番号が振られている。なお、EVA初号機を見たシンジが慌てて資料をめくったが、最重要機密にあたる人造人間に関しては載っていなかった

「FOR YOUR EYES ONLY」と繰り返し書かれた紙の封印が施されており、機密性の高さが窺える

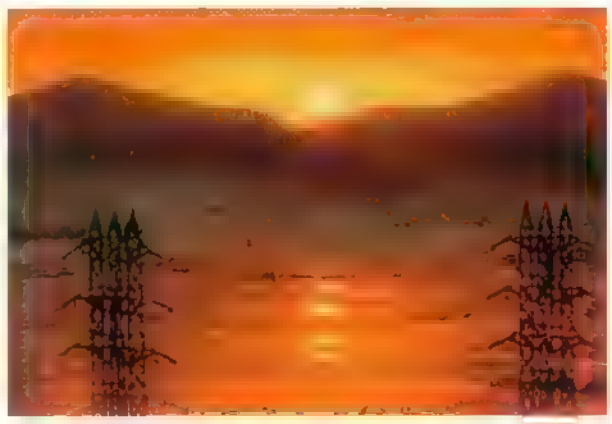
CATEGORY の Glossary

ノゾミ

洞木ヒカリの妹。年齢など、詳細は不明。ヒカリはノゾミと姉のコダマ、姉妹の分のお弁当をいつも作っているらしい。

野辺山

本州中央部、長野県南佐久郡南牧村に属する八ヶ岳裾野の秩父山地西端にある高原。第13使徒バルディエルに寄生されたEVA3号機に対してEVA3機が、戦線を展開した場所である。標高は1,350m～1,400mほどで、スキー場や国立天文台などが有名



松代から第3新東京市に向かうバルディエルが通過した地域。のどかな田園風景が広がる場所だが、ダミーシステムが起動した初号機により一転して殺戮の場となる

CATEGORY は

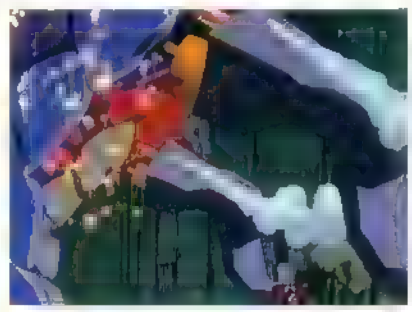
ばあさん

赤木ナオコが幼い綾波レイに出会った際に言われた言葉。最初はナオコも子供の言うことと思って受け流していたが、もともと「ばあさんはしつこい」「ばあさんは用済み」と言い出したのは彼女と愛人関係にあった碇ゲンドウだということをレイの口から聞かされ激昂、衝動的に彼女の首を絞めてしまう。我に返ったナオコは動かないレイを見て自分のしたことに驚愕、そののち転落死体として発見された

嘲笑するような表情でナオコを「ばあさん」呼ばわりしたレイ。その面影が愛するゲンドウのかつての妻ユイに似て ̄ ̄ことがまたナオコの怒りを誘ったようである

パージ

外部電源コンセントからアンビリカル・ケーブルのソケット部分を強制排除すること。第7使徒イスラフェルと2度目の戦闘が開始される直前に、ケーブルによって自由な動きが阻害されないための措置として、葛城ミサトの指示でEVA初号機及び弐号機の外部電源がパージされた。また、電源ビルでアンビリカル・ケーブルを付け替える際も任意で行なわれるほか、試験などでEVAが制御不能となった場合、管制室の指示でも行なわれる



フル稼働の最大戦速を要するイスラフェル殲滅作戦において ̄ ̄作戦前の電源ハ ̄ ̄は必須であ ̄ ̄その後 内部電源を限界まで利用 ̄ ̄でEVA2機は見事に勝利する

パーソナルパターン

個人の特徴を示す一定情報。EVAのパーソナルデータは各操縦者のパーソナルパターンに合わせられており、操縦者が変わる場合はその都度書き換えが必要なようだ。第1回機体相互互換試験において、綾波レイはEVA初号機とのシンクロに成功しており、碇シンジはEVA零号機と第2次コンタクトまで成功させた。その際に 零号機と初号機のパーソナルパターンが酷似していると伊吹マヤは語っており、「だからこそシンクロ可能なのよ」と赤木リツコが答えている。こ

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

のことからEVAは、操縦者をパーソナルパターンによって認識しているとも考えられる。それを利用したものがダミーシステムと推測され、ダミープラグにはレイのパーソナルパターンが移植してあった

ハーモニクス

EVAと操縦者が神経接続を行なった際の和合を表す。機体との連動が成功し調和が保たれた状態を示すと考えられ、値はレベルによって表現される。なお、ハーモニクスとは倍音のこと。倍音とは音の一種である楽音を正弦波に分解したときに現れる構成要素で、周波数が基音に対し2以上の整数倍になっている音のことをいい、より澄んだ音になる。また弦楽器の演奏技法もハーモニクスと呼ばれることがある

ハーモニクスは正常か否かで判断されるようで、神経接続が正しく成され機体と適格者の調和が保たれていれば問題ない様子

ハーモニクステスト

ハーモニクスを測るためのテスト。B型ハーモニクステスト等、何パターンかテストにも種類があるようだ。通常はテストプラグを使用して定期的に行なわれるが、プラグスーツの補助なしに直接肉体からハーモニクスを行なうオートパイロット実験がシミュレーションプラグで行なわれたこともある

バイオハザードマーク

バイオハザードの危険性があるものに明記される国際規格の警告表示。なお、バイオハザードとはウィルスや細菌などによって発生する生物災害を意味する。加持リョウジがドイツ支部から持ち出した、硬化ベークライトで固められたアダムと称される物体にはこのマークが刻印されていた

パイロット

エヴァンゲリオン操縦適格者のこと。チルドレン、適格者などとも呼称される。EVAを操縦するためには特殊な条件が必要であり、それを満たした者だけがパイロットになれる。なお、操縦できる機体はパイロットごとに固定であり、基本的にはそのEVAの専属のパイロットとなる。パイロットが変更になる場合は、機体のコアも適格者に合わせて変換するようだ

バウムクーヘン

輪切りにすると樹木の年輪のように見えるドイツ生まれのケーキ。第6使徒ガギエル迎撃戦において、EVA弐号機の思考言語は惣流・アスカ・ラングレーの日常言語であるドイツ語に設定されており、同乗した碇シンジが日本語による思考をしていたために思考ノイズが発生。そのため「ドイツ語で考えてよ」とアスカに怒鳴られたシンジが、ドイツを連想して出た言葉がこれだった。その後アスカは呆れて、日本語をベースにした思考言語に切り替えている。

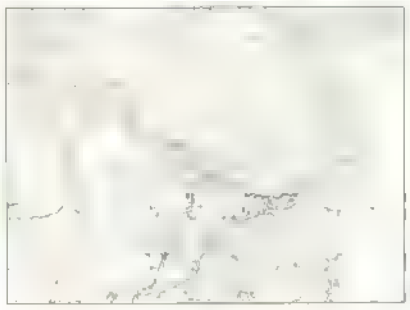
バケツ

第3新東京市及びNERV本部が何者かの手により停電させられた際、生き残った電源はすべてMAGIとセントラルドグマの維持に回されたため全館の生命維持に支障が発生。空調もすべて停止したため発令所内は猛烈な暑さに見舞われたその際、碇ゲンドウと冬月コウゾウは水を張った防火用のバケツに足を入れて密かに涼を取っていた。

水を張ったものの恐らく30度をゆうに超えるであろう高気温の中ではあまり効果的ではなかったらしく、冬月は「ぬるいな」とつぶやいていた。ケンドウも同意している

箱根

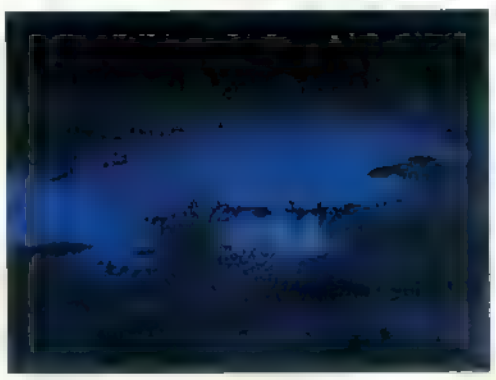
神奈川県足柄下郡にある観光・温泉地。富士箱根伊豆国立公園の中央に位置しており、江戸時代には東海道五十二次の10番目の宿場でもあった。NERVにとって重要な土地であり、2003年時にはすでに国連直轄の人工進化研究所がゲヒルンの隠れ蓑として建てられ、第2次遷都計画により芦ノ湖北岸に要塞都市である第3新東京市が建設された。そのため箱根一帯が使徒迎撃のための要地と化している



セカンドインパクト以後、かつての観光地は使徒迎撃のための要塞となっている

箱根の地下空洞

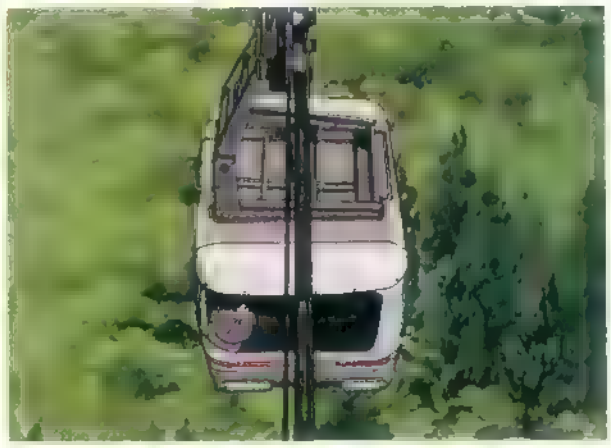
箱根の地下に広がる空洞。ほぼ完璧な球状の地底空間には原生林の森と地底湖が存在し、2003年時はその89%が埋没していた。このジオフロントを人類が持てる全てを費やして開発し、NERV本部施設が築かれている。なお、サードインパクトの衝撃により地表堆積層が融解、その第2波により本部周縁が掘削され、埋没していたジオフロント本来の姿、黒き月が露呈した



「我々ではない、誰かが残した空間ですよ」と碇ゲンドウが冬月コウゾウへ語った箱根の地下空間。この場所と南極の地下空洞のデータはほぼ一致しているという。

箱根ロープウェイ

早雲山駅、大涌谷駅、姥子駅、桃原台駅間を結ぶ索道。約4kmを約30分で移動する複線自動循環式の運転方式を用いている。なお、使徒迎撃時は対空機銃ゴンドラが運用される仕組み



A17が発令された際、加持リョウジが日本国政府の諜報員らしき人物と接触していた場所は箱根ロープウェイのゴンドラ内であった

方舟

生命の樹へと還元したEVA初号機を見た冬月コウゾウは、「サードインパクトの無からヒトを救う方舟となるか、ヒトを滅ぼす悪魔となるか。未来は碇の息子に委ねられたな」と語っており、これは旧約聖書の創世記に記された大洪水におけるノアの方舟に喩えているものと思われる

人類の生きた証を永遠に残したかったという碇ユイ。自ら望んで初号機に残ったという彼女は無限に生きられるEVAを方舟にみたてたのだろうか

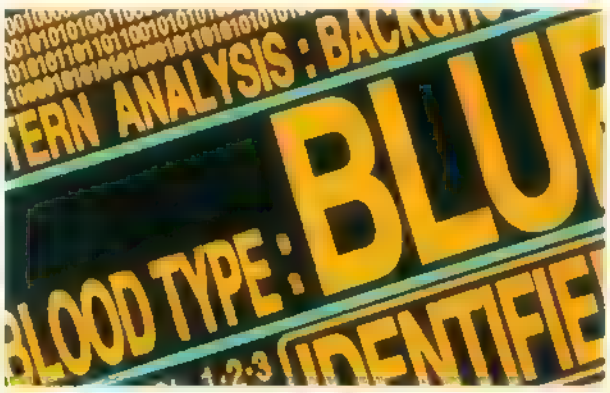
バズーカ

EVAの装備のひとつ。使徒戦で使用するロケット弾発射機。第13使徒バルディエルとの戦闘においてEVA弐号機が装備していたものの、同機がバルディエルの不意打ちで容易く沈黙してしまったため有効に使われることはなかった。なお、「バズーカ」は兵器の正式名称ではなく、対戦車用ロケット発射機の愛称である。アメリカの音楽コメディアン、ボブ・バーンズが使用していた「バズーカ」と呼ばれる自作のラッパに形状が似ていたため、この愛称がつけられたとされる

EVAの全長にも届きそうな長さの砲身を持つEVA専用バズーカ。かなりの威力を持つものと推測されるが、その成果が見られることはなかった

パターン・青

MAGIにより対象の波長パターンが分析された際の結果のひとつで、使徒の波長パターンを指すもの。モニター上には「WAVELENGTH BLOOD TYPE BLUE」もしくは「ANALYSIS PATTERN BLUE」との表示が出る。なお、綾波レイと一体化したリリスは、パターン・青と分析されつつ、同時にヒトとも判じられていた



モニター上の表示は2種類あるが、特に内容的な違いはないようだ。また、略して「BLOOD TYPE BLUE」とだけ表示されることもある

パターン・オレンジ

MAGIにより対象の波長パターンが分析された際の結果のひとつ。対象の波長パターンが不明である場合にこの結果が打ち出される。モニター上では「ANALYSIS PATTERN ORANGE」と表示。これは、対象を分析するための情報量が足りず判断が保留されている状況、すなわち「使徒と考えられるが断定はできない」場合に用いられているようだ第12使徒レリエル、第13使徒バルディエル、第16使徒アルミサエルに対してパターン解析を行なった際、パターン・オレンジがアナウンスされている。なお、レリエルは当初A.Tフィールドを展開しておらず、EVA初号機が攻撃を仕掛けた直後に本体である影がパターン・青と分析されている。また、アルミサエルはパターン・青とパターン・オレンジを周期的に変化させる様子を見せており、MAGIもその理由を回答できず発令所内の人間を困惑させていた。

バルディエルに乗っ取られた3号機は松代の事故現場で未確認移動物体とされ、野辺山で姿を確認後、停止信号などを受け付けなかったため碇ゲンドウの指示にて使徒と認定されている

パターン・グリーン

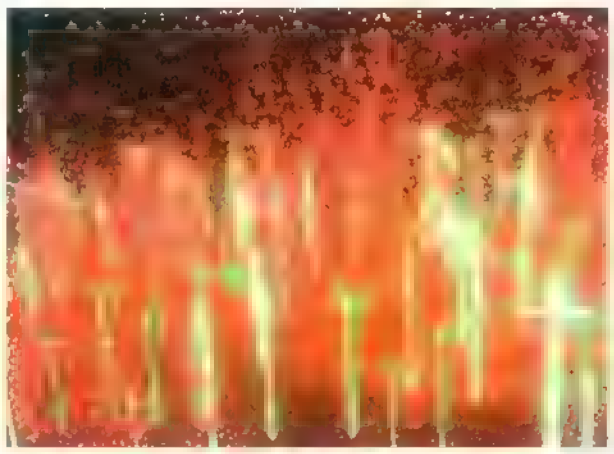
第1回機体相互互換試験においてEVA零号機と碇シンジの第1次接続が開始された際、「データ受信再確認」との報告後、パターン・グリーンとのアナウンスがなされた。このことから、精神汚染などの危険はなく、EVAと適格者のコンタクトに取り立てて問題がない場合に使われるものと考えられる

パターン・セピア

EVA初号機に取り込まれた碇シンジのサルベージ作業において、失敗を察したリツコは自我境界パルスによる干渉の中止を指示。「タンジェントグラフを逆転。加算数値をゼロに戻す」が状況は改善されず、「デストルドー反応」が認められた際にパターン・セピアと青葉シゲルがアナウンスしている

パターン・レッド

MAGIがA.T.フィールドの波長パターンを分析した際に打ち出される結果のひとつ。EVA初号機を寄り代としたゼーレによる人類補完の儀式が行なわれた際、ソレノイドグラフが反転し、自我境界が弱体化していくとのアナウンスがされ、その後A.T.フィールドがパターン・レッドとなった旨が日向マコトによってアナウンスされた。このことより、パターン・レッドは個体生命を維持するのが困難なほどにA.T.フィールドが弱まった状態を指していると推測される。リリスがアンチA.T.フィールドを展開したことによるものであろう。



A.T.フィールドがパターン・レッドになった後もリリスのアンチA.Tフィールドはさらに拡大して物質化され、ついには全人類が個体生命の形を維持することができないまでになった

ハッキング

ハッキングの原義は、コンピュータのエキスパートが行なうハードウェア及びソフトウェアに関するエンジニアリングを広く意味するもので、批判的な意味合いの言葉ではない。しかし、一般的にはネットワークで繋がったコンピュータに不正に侵入し、データの破壊や改ざんなどを行なうことがハッキングと呼ばれている。本来こういった行為は「クラッキング」もしくは「クライム・ハッキング」と呼ぶ。第11使徒イロウルが、NERV本部のサブコンピュータから保安部のメインバンクを経由してMAGIに不正侵入、データを改ざんしようとしたことも「ハッキング」と呼ばれていた。

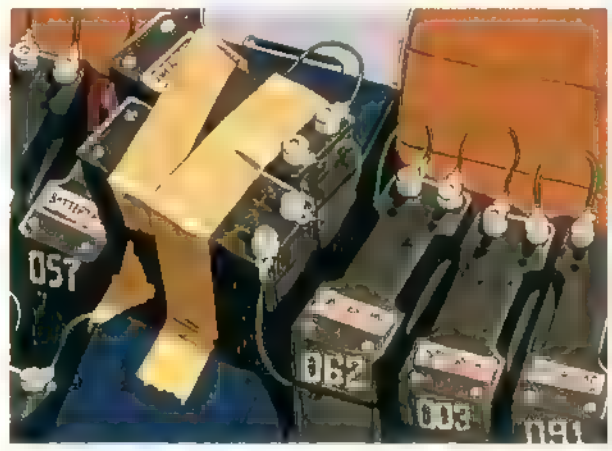
バックロールエントリー

正式にはシッティングバックロールエントリー。スクーバダイビングにおけるエントリー方式のひとつで、後ろ向きに倒れ込んで潜るダイビング。ダイブする水面までの距離が短く、足場の不安定な小さなボートなどから潜る際によく使われる。戦闘待機のため修学旅行に行けなかった惣流・アスカ・ラングレーが、楽しみにしていたスクーバを本部のトレーニングプールで実行。碇シンジにバックロールエントリーを披露した。なお、使徒捕獲作戦のため浅間山火口に潜行する際も、EVA弐号機にジャイアント・ストロング・エントリーをさせている。

シュノーケルやフィン、ボンベまで本格的に用意しており、よほど修学旅行のスクーバを楽しみにしていたと分かる

バッテリーパック

2015年時点で一般的に使用されていると推測される電気自動車の動力となる蓄電池。第3使徒サキエルが襲来した際、国連軍が使用したN²地雷の衝撃波に巻き込まれ、葛城ミサトの愛車アルピーヌ・ルノーA310（改）が中破してしまうそのためミサトは、ほかの車のバッテリーパックを勝手に使って応急修理を行なう。「非常時だし国際公務員だし」とミサトは誤魔化していたが、無断借用に碇シンジの視線は冷たかった



テープで無理矢理に固定してある他車のバッテリーパック　このおかげで何とかNERV本部まで走ることができたようだ

発令所

中央作戦司令室のこと。発令所は通称。NERV本部における中枢部であり、作戦行動の立案、分析、指令などを行なう指揮所。通常使用される第1発令所と、緊急時などに使用される予備としての第2発令所のふたつがある。中央作戦司令室も参照。

バラスト

基本的には航空機の重心調整用の重りや潜水艦が潜水や浮上に用いる水、気球の昇降を調整するための重りなど。EVA弐号機が浅間山火口に潜行する際、沈降するための重りとしてD型装備の腰に金属ベルトによって巻かれていた

第8使徒サンダルフォンが襲ってきた瞬間弐号機はバラストを放出して浮力を得突進をかわしている

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

地上発進口へと
高速輸送中の、エヴァ

作戦に合わせた最適の位置から発進するために、輸送用の地下トンネルが造られている。
両肩の大型パイロンを使用してリニア・レールを高速移動。
トンネルは２層式で、下は車道となっている。

戦場となる第３新東京市

ビルに格納されている専用ライフルを手に、先導車の後を進む初号機。奥に見えるのが、発進用の大型昇降機。道路はエヴァの重量を支えるため、ブロック状のアブソーバーになっている。
このように要塞化された街の要所要所には、各種兵器や予備エネルギーパック、充電用の大型ソケット等が、非常時に備え配備されている。

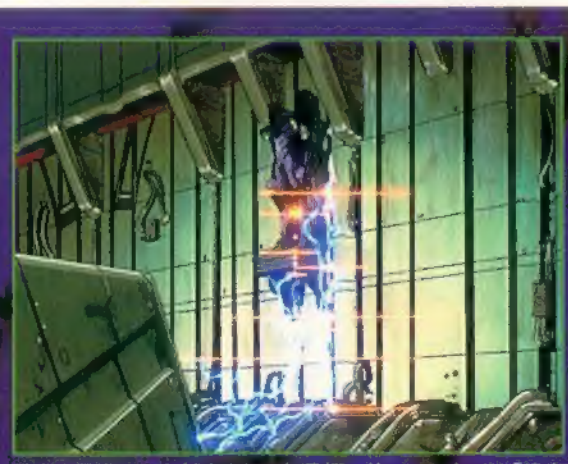
30

PAGE No.

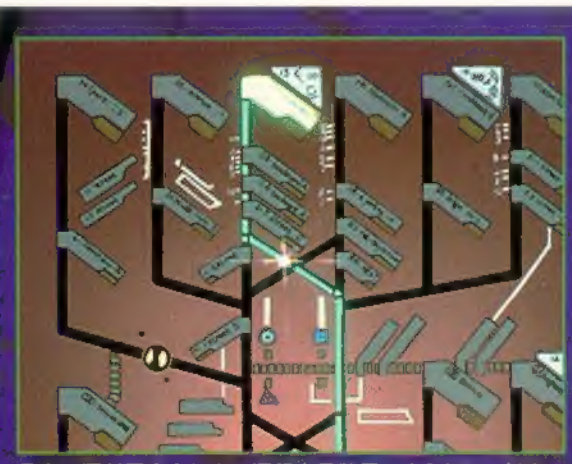
KEYWORD

輸送用の地下トンネル

市街地の一般道路上に敷設されたEVA発進用の巨大な昇降口。巨大な重層式シャッターが開口すると同時に、EVAが猛スピードでせり上がってくる。リニアモーター式のカタパルトからの射出速度の超高速を見せる演出である。



地上の発進口へと射出される初号機。絵コンテ上では「操車場のよう」と記されており、その通り、EVAは目的の発進口に合わせて射出位置が変わる。



電車の運行司令室にある運行表示装置のようなEVA射出ルートのディスプレイ。実際に絵コンテにも「新幹線の総合表示装置」と記されている。

EVAはリニアレール上にパイロンで固定された状態で地上へ出撃。その後、リフトオフされて、使徒との臨戦態勢を取る。ちなみに、この地上発進口は、作戦終了時の機体回収にも利用される。

EVAシリーズは、大深度地下の本部施設から地上の市街地、つまりNERV本部から第3新東京市のいかなる場所へも急行できる。この設定は企画書段階から確定しており、リニアレールで超高速移動するよう考えられていた。ただし、企画書上では、輸送用トンネルは通常の車道との2層式となっており、本部への車両用シークレットロードも兼ねていた。

KEYWORD

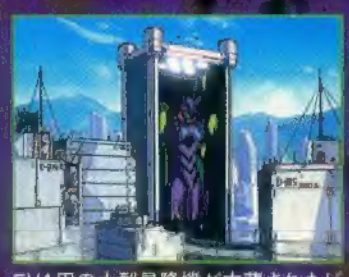
戦場となる第3新東京市

ビルの陰に隠れて、銃撃体勢をとる初号機。ビルの谷間で展開される巨大ロボットのバトルは、いやがうえにも見る側のカタルシスを高めるものがある。また、EVAとビル群や手前の車両や歩道橋との対比も見事である。

第3新東京市内で繰り広げられる市街地戦は、作品中の大きな見せ場となる。市街地での戦闘は、EVAや使徒の巨大感や破壊のカタルシスをより強くアピールできる。また、これには庵野監督がファンを公言する「ウルトラマン」の影響もあるに違いない。

市街地に出現するEVAの巨大な姿には、どこか尊大で畏怖感や恐怖感すら漂う。

シャムシエルと市街戦を展開する初号機。特撮セット的な雰囲気もあり、そこも魅力となっている。



EVA用の大型昇降機が内蔵されたビル。このリフトビルも、企画書内で言及されている設定である。

KEYWORD

要塞化された街

第3新東京市は使徒の襲来に際し、一般のビルをまるごと地下区画へと収納、退避させることで防御態勢を整える。市街地全体には特別非常事態宣言が発令され、一般市民も地下シェルターへと避難を行なう。そのため、使徒との戦闘時、街はもぬけの殻同然となる。

第拾六話より、アンビリカルケーブルを擬装ビルから引き出して差し替える弐号機。このように市街地の各所にEVAの活動をサポートする設備が内蔵された擬装ビルが存在する。これは企画書からの設定であり、作品において市街地戦がいかに重要視されていたかわかる。

第3新東京市は一般市民も生活している都市ではあるが、“使徒迎撃のため”の戦闘用都市として考えられている。街がバトルフィールドで戦闘基地という設定もさることながら、EVAが街の建造物に被害をおよぼす可能性があり、軍事優先のスタンスも言外に表している。

ビルに擬装されたEVA用ウェポンロッカー。企画書では、出撃後にこのロッカーから武器を取り出すとされているが、本編ではあくまでも予備扱いであった。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

第３新東京市上空を舞う、
使徒・サハクィエル（空の天使）
どこまでも伸び光学兵器をも跳ね返す伸縮自在の薄い板状の体が、最大の武器。
それにより、反射されたレーザーが、逆にエヴァを襲うことになる。
中央に光る球状の物体が、制御本体と思われる。

右手にあるのが、高周波ナイフ。
半透明の極振動刃が、火花をあげ、敵をバターナイフの様に切断する。
左手に装備されている、照準用の全周波レーザー発振機が目標を捕捉。連動した両胸から、虹色のレーザーが発射され、敵を撃破する。

新たなイメージ　ナイトシーンでの戦闘

両肩はミサイルランチャー等の大型バイロンの他に、サバイバル・ツールのような武装ポットも兼ねている。

31

PAGE No.

KEYWORD

使徒・サハクィエル(空の天使)

ボディにある球状のコアが使徒共通の弱点であることは、企画書に明記されている。

企画書に記載されているサハクィエルの特徴は、第弐拾参話に登場したアルミサエルに近い。アルミサエルは、螺旋状の状態から紐状になり敵を攻撃する。

本編登場のサハクィエルと同じ特徴を持つ使徒が企画書のシリーズ構成表に見られる。しかし、最終的にその名は変更されている。

使徒サハクィエルと戦うEVAのイラストと共に、そのサハクィエルの特徴が記されている。だが、本編のサハクィエルは名称のみが継承されていた。このイラストのデザインや記述されている特徴と完全に合致する使徒は、本編には登場していない。

KEYWORD

両胸から、虹色のレーザーが発射

使徒と共にEVAの武装についての記述がされており、ナイフ類は高周波振動刃であることが明らかにされている。また、さらにEVAの腕部にある照準器と連動して、胸から虹色のレーザー光線を発射するとの設定も。これはEVAの必殺技として想定されていたのかもしれないが、作品中はこの内蔵兵器はなく、装備はすべて携帯兵装などミリタリー色の強い方向で統一されている。

EVAの基本武装とされている高周波振動ナイフ、プログ・ナイフ。企画書に掲げられたイラストでも、肩のパイロンからナイフがポップアップするギミックが描かれている。

高周波振動刃の長刀状の武器であるソニックグレイブを大きく振りかぶる弐号機。この武器は、企画書のイラストで使徒と戦うEVAが手にしている。

第弐拾四話のセントラルドグマにおける初号機と弐号機の戦闘。互いにプログ・ナイフを用いて格闘戦を繰り広げる。それぞれ登山ナイフ型、カッターナイフ型と形状が異なっているところにも注目したい。

パレットライフルを連射する初号機。EVAに装備される火器類において、小型～中型の部類に属するパレットライフルは、初号機に限らず本編でもEVA各機が頻繁に使用する携帯火器である。

KEYWORD

ナイトシーンでの戦闘

第弐話冒頭、深夜のビル街の中で対峙する2体の巨人。企画書で提唱されている市街戦とナイトシーンの戦闘との要素が活かされているシーンである。しかし、本編での夜間戦闘は、全体的にはそれほど頻出しているわけではない。

第弐話より。サキエルの怪光線による攻撃を真っ向から浴びる初号機。迫力あるアップショットに加えて、要所に超ロングショットのアングルを織り交ぜることで、使徒とEVAがいかに巨大であるかを際立たせている。

企画書に記載された「両肩はミサイルランチャー等」。この設定に近い武器は、旧劇場版でようやく登場する。それこそ旧劇場版『Air/まごころを、君に』で、弐号機が肩パイロンに装備していたニードルランチャーである。

第壱話での、使徒の放つ怪光線の攻撃により立ち上る十字架型の火柱。その形状もさることながら、夜間ゆえに光線の形がハッキリと見える大変印象に残るシーンとなった。

企画書には、夜間の戦闘シーンを重視するような記述も見られる。これを反映してか、実際に第壱話、第弐話でのサキエル対初号機の戦いは、夜間のシーンであった。また、第六話でも夜の狙撃戦がクライマックスに用意されている。ちなみにOPのプログ・ナイフを構える弐号機のカットも夜である。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会